

3 同和（部落）問題について

問3 あなたが、部落差別についてはじめて知ったのは、どのようにしてですか。

（○は1つだけ）

また、1から4と回答された方は、聞いたその内容を（ ）に書いてください。

図 3-1. 部落差別の認知経路—全体・性別

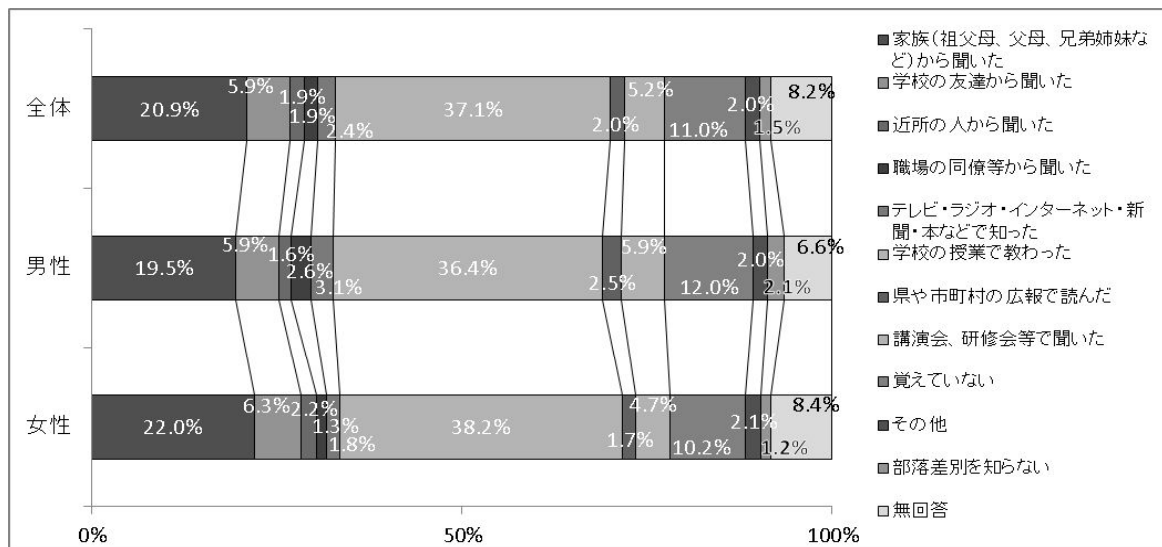


図 3-1 は、部落差別の認知経路をみたものである。

「学校の授業で教わった」と回答した人が全体で 37.1%と最も高く、次いで「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」20.9%、「覚えていない」11.0%となっている。

性別では、「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」と回答した人は、男性 19.5%と女性 22.0%となっている。また、「学校の授業で教わった」では、男性 36.4%と女性 38.2%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和问题等人権問題に関する市民意識調査）

問4 あなたが、部落差別についてはじめて知ったのは、どのようにしてですか。（○は1つだけ）

- 1 家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた
- 2 学校の友達から聞いた
- 3 近所の人から聞いた
- 4 職場の同僚等から聞いた
- 5 テレビ・ラジオ・インターネット・新聞・本などで知った
- 6 学校の授業で教わった
- 7 県や市町村の広報誌で読んだ
- 8 講演会、研修会等で聞いた
- 9 覚えていない
- 10 その他（具体的に： ）

表 3-1. 部落差別の認知経路—前回調査との比較結果—

部落差別の 認知経路 調査年度	家族から 聞いた	学校の 友達から 聞いた	近所の人 から聞いた	職場の 同僚から 聞いた	テレビ・ラ ジオ・イン ターネット・新聞・ 本などで 知った	学校の 授業で 教わった	県や市町 村の広報 誌で読ん だ	講演会、 研修会等 で聞いた	覚えて いない	その他	部落差別 を知らない	無回答	計
平成17年	24.2%	11.0%	2.9%	1.6%	2.8%	38.1%	1.3%	3.0%	11.4%	1.9%		1.8%	100.0% (2402)
平成27年	20.9%	5.9%	1.9%	1.9%	2.4%	37.1%	2.0%	5.2%	11.0%	2.0%	1.5%	8.2%	100.0% (2138)

表 3-1 は、部落差別の認知経路について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「学校の授業で教わった」と回答した人が、今回調査 37.1%で前回調査 38.1%となっている。

図 3-2. 部落差別の認知経路—年齢別

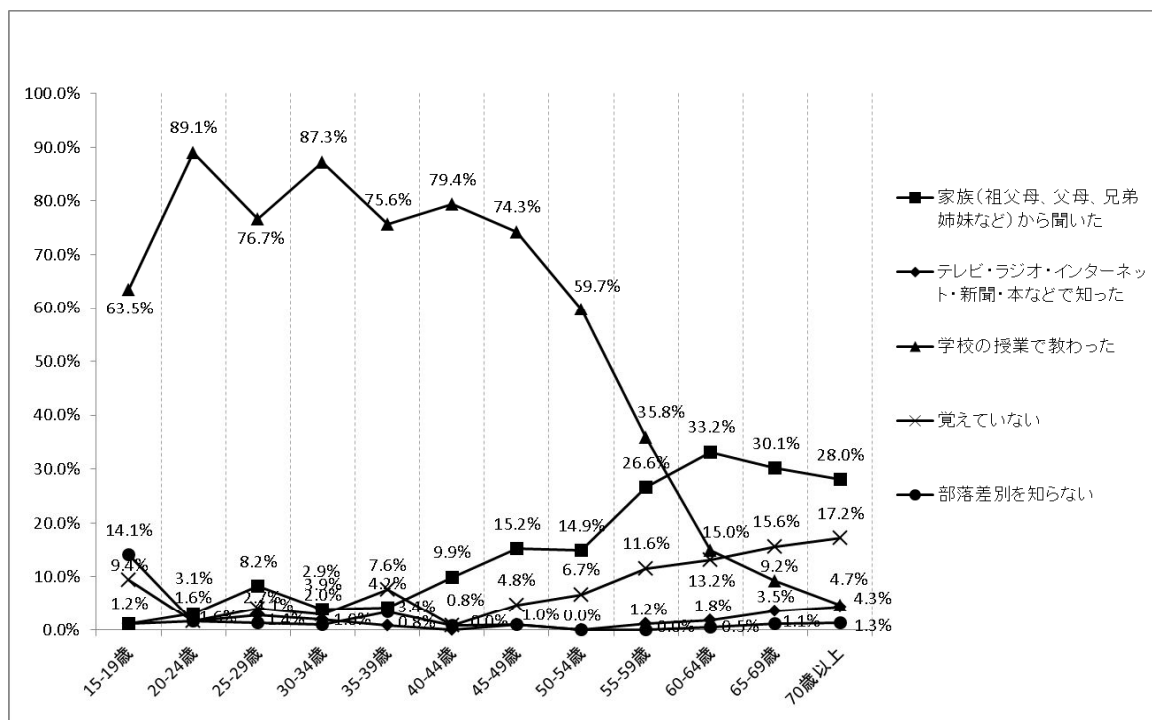


図 3-2 は、部落差別の認知経路の主な選択肢について年齢別にみたものである。

「学校の授業で教わった」と回答した人が、15～59 歳では、他の選択肢と比較して最も高くなっている。

60 歳以上では「家族（祖父母、父母、兄弟姉妹など）から聞いた」と回答した人が、他の選択肢と比較して最も高くなっている。

問4 現在でも部落差別は存在していると思いますか。(○は1つだけ)

図4-1. 部落差別の存在認知—全体・性別

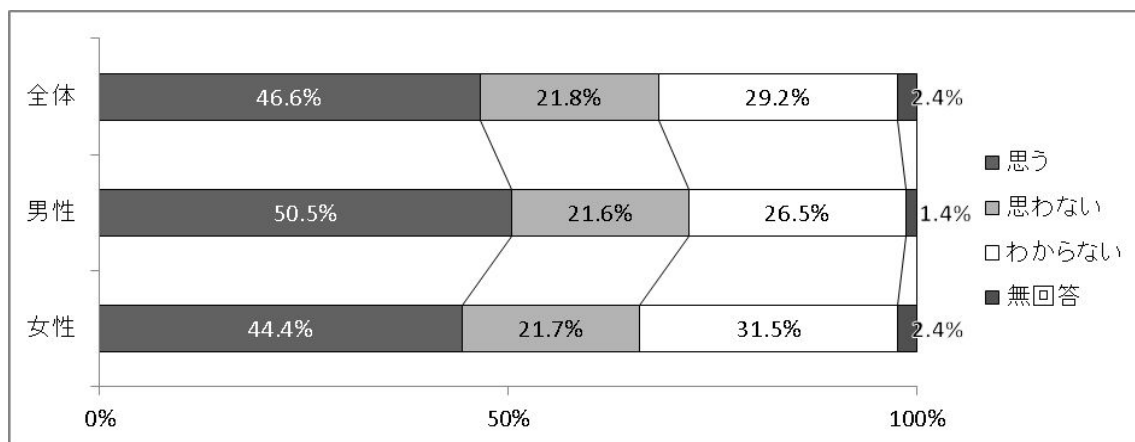


図4-1は、部落差別の存在認知をみたものである。

現在でも部落差別は存在していると「思う」と回答した人は、全体では46.6%となっており、性別では、男性50.5%、女性44.4%となっている。

「思わない」と回答した人は、全体では21.8%となっており、性別では、男性21.6%、女性21.7%となっている。

「わからない」と回答した人は、全体では29.2%となっており、性別では、男性26.5%、女性31.5%となっている。

図4-2. 部落差別の存在認知—年齢別

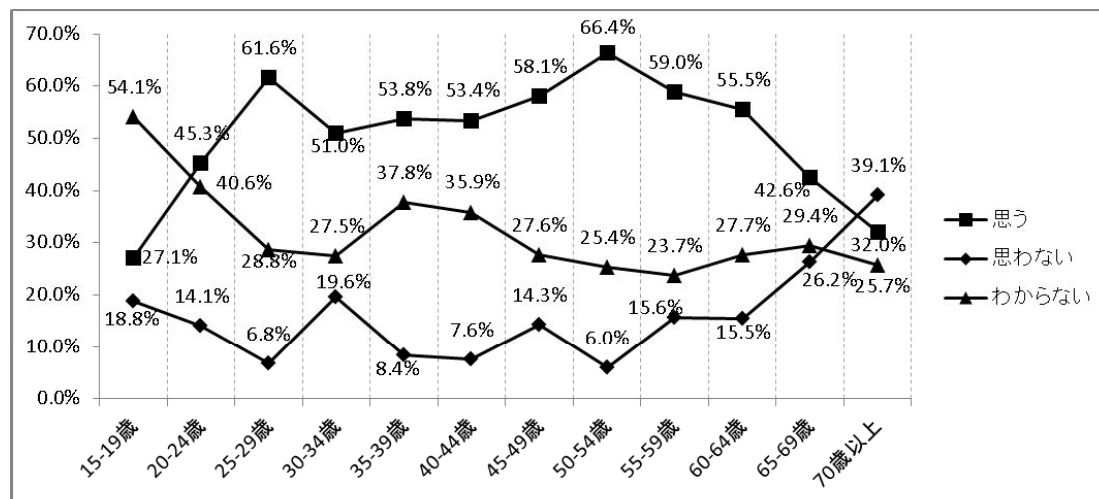


図4-2は、部落差別の存在認知を年齢別にみたものである。

「思う」と回答した人は、「50～54歳」66.4%が最も高く、次いで「25～29歳」61.6%、「55～59歳」59.0%となっている。

「思わない」と回答した人は、「70歳以上」39.1%が最も高く、次いで「65～69歳」26.2%、「30～34歳」19.6%となっている。

「わからない」と回答した人は、「15～19歳」54.1%が最も高く、次いで「20～24歳」40.6%、「35～39歳」37.8%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問2 あなたは日本において結婚や就職等社会生活の中で、次のような差別があると思いますか。（各項目のおのおのについて（1）から（4）までの番号のいずれか1つに○をして下さい。）

6. 同和地区住民に対する差別

図 4-3. 同和地区住民に対する差別の存在認識—全体・性別

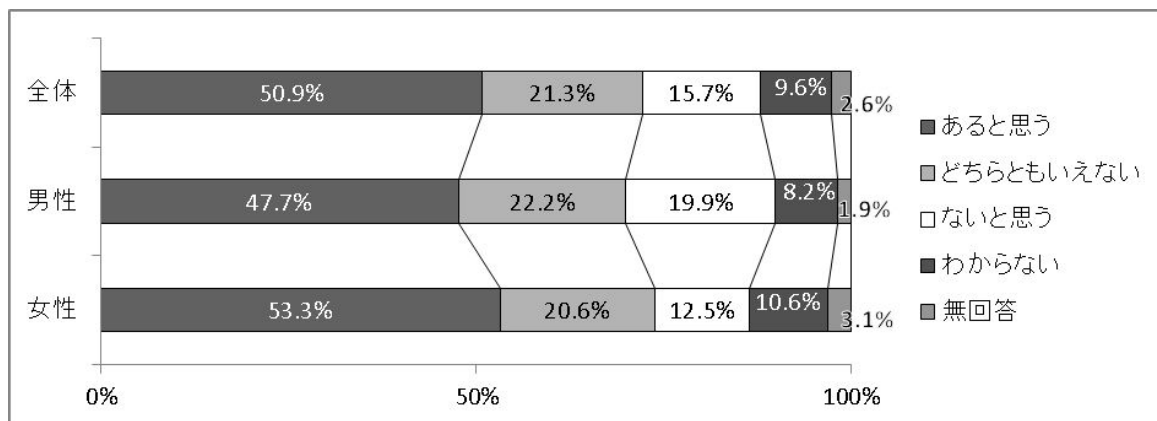


図 4-3 は、平成 17 年の前回調査で同和地区住民に対する差別の存在認識についてみたものである。

「日本において結婚や就職等社会生活の中で差別があると思いますか」の問いに対し、「あると思う」と回答した人は 50.9%、「どちらともいえない」は 21.3%、「ないと思う」は 15.7%、「わからない」は 9.6%となっている。

図 4-4. 同和地区住民に対する差別の存在認識—年齢別

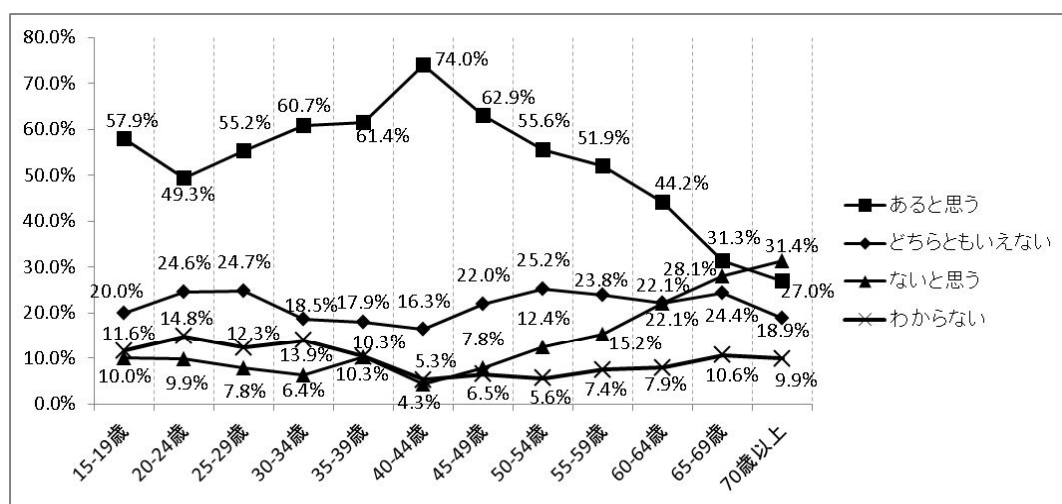


図 4-4 は、平成 17 年の前回調査で同和地区住民に対する差別の存在認識について年齢別にみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「あると思う」と回答した人が一番多い年代は、前回調査（平成 17 年度）では「40～44 歳」74.0%であったものが、今回調査（図 4-2）では「50～54 歳」66.4%となっている。

「15～19 歳」では、「あると思う」と回答した人が、前回調査では 57.9%で、今回調査（図 4-2）では、27.1%となっている。

問 4-1 問 4 で 1 と回答された方に、それは、どのような意識（考え）があるからだと思いますか。あなた自身の意識（考え）に 1 番近いものをお選びください。（○は 1 つだけ）

図 4-5. 部落差別が存在するのはどのような意識かー全体・性別

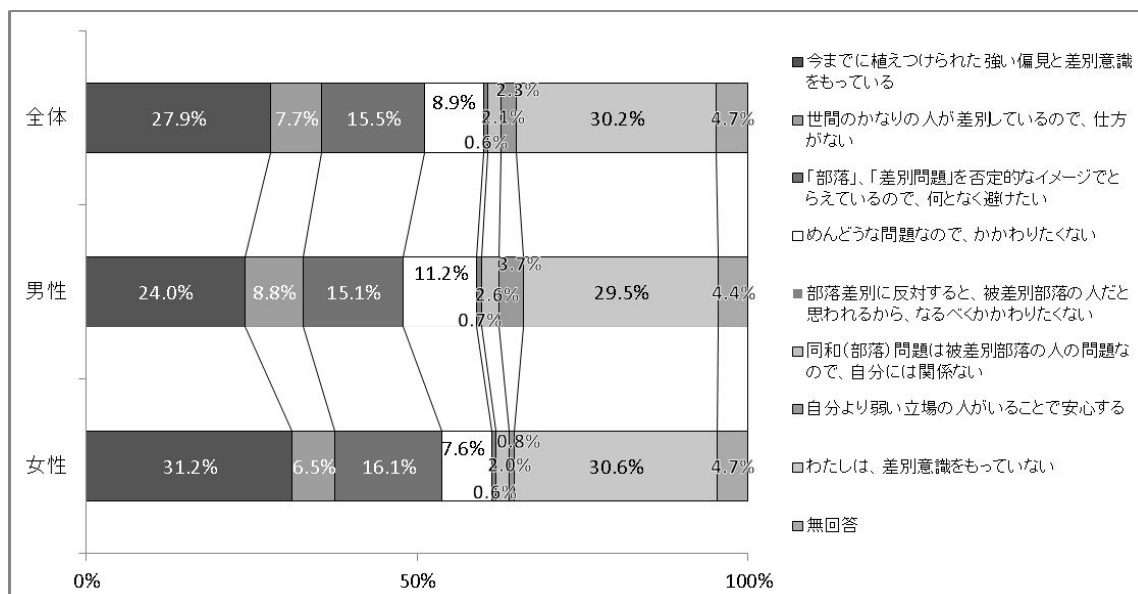


図 4-5 は、部落差別が存在するのはどのような意識があるからかをみたものである。

問 4 で部落差別が存在していると「思う」と回答した人に、どのような意識（考え）があるからだと思うかの問いでは、「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人が全体で 27.9%と高く、次いで「部落」、「差別問題」を否定的なイメージでとらえているので、何となく避けたい」15.5%となっている。

なお、回答の中で一番高かったのは「わたしは、差別意識をもっていない」で、30.2%となっている。

性別では、「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人は、男性 24.0%と女性 31.2%となっている。

「めんどろな問題なので、かわりたくない」では、男性 11.2%と女性 7.6%で、「わたしは、差別意識をもっていない」では、男性 29.5%と女性 30.6%となっている。

図 4-6. 部落差別が存在するのはどのような意識か一年齢別

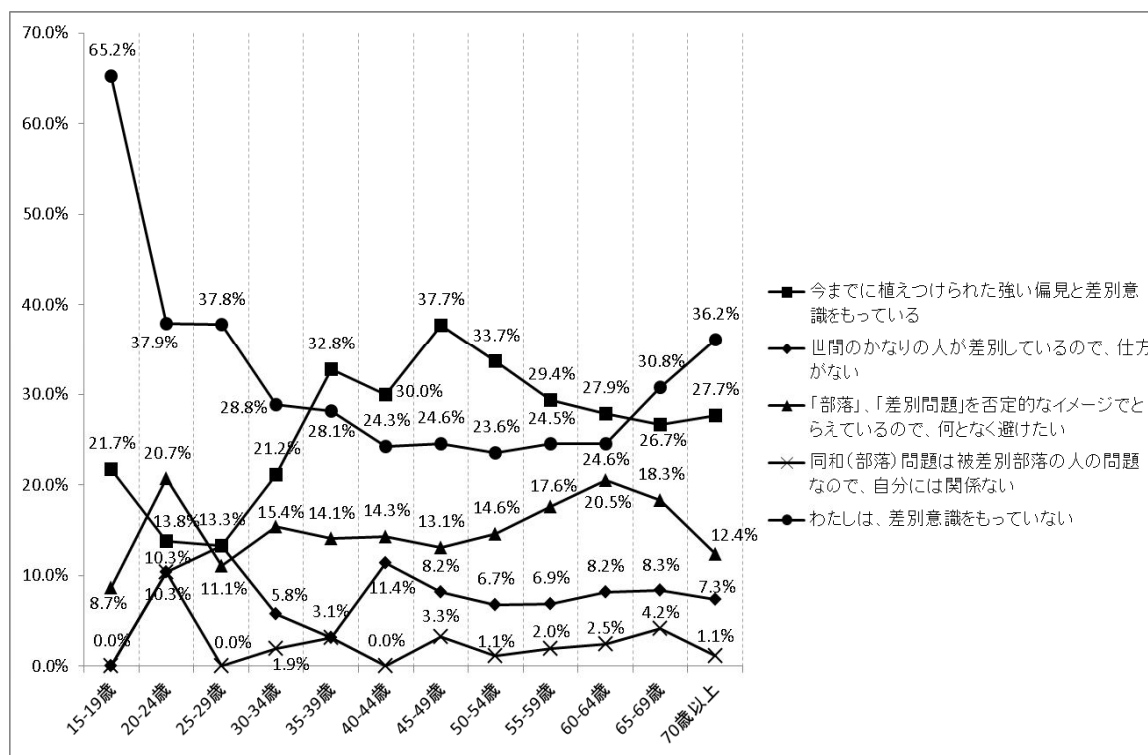


図 4-6 は、部落差別が存在するのはどのような意識があるからかを年齢別にみたものである。

「今までに植えつけられた強い偏見と差別意識をもっている」と回答した人は、「45～49 歳」37.7%が最も高く、次いで「50～54 歳」33.7%、「35～39 歳」32.8%となっている。

「「部落」、「差別問題」を否定的なイメージでとらえているので、何となく避けたい」と回答した人は、「20～24 歳」20.7%が最も高く、次いで「60～64 歳」20.5%となっている。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は、「15～19 歳」65.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」37.9%、「25～29 歳」37.8%となっている。

問 4-2 今、部落差別にはどのような実態があると思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

図 4-7. 現在の部落差別の実態認識—全体・性別

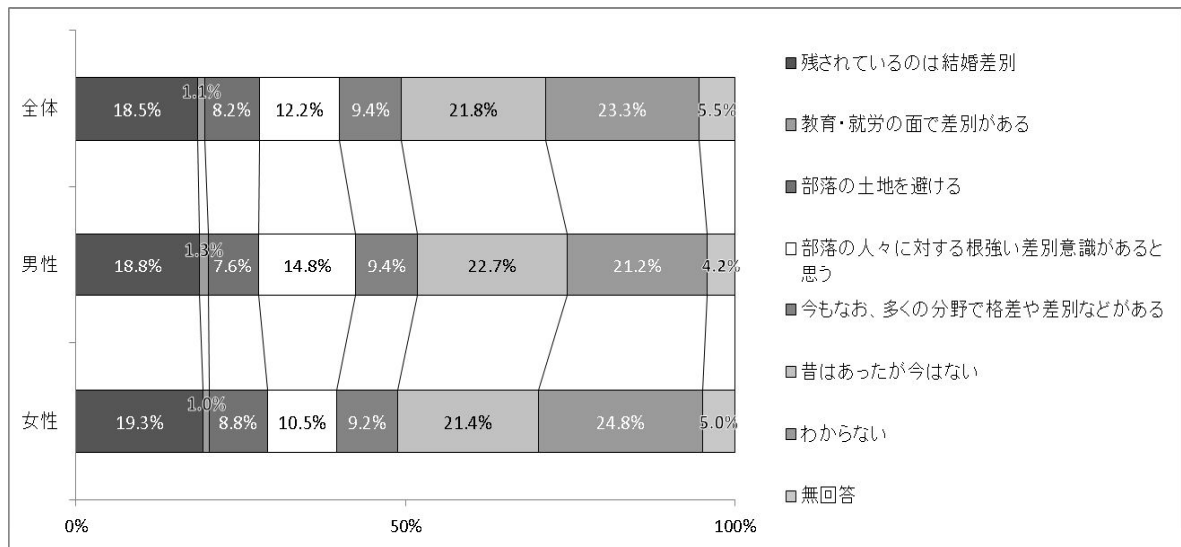


図 4-7 は、現在の部落差別の実態認識をみたものである。

今、部落差別にはどのような実態があると思うかの問いでは、「わからない」と回答した人が全体で 23.3%が最も高く、次いで「昔はあったが今はない」21.8%、「残されているのは結婚差別」18.5%となっている。

性別では、「昔はあったが今はない」と回答した人は、男性 22.7%と女性 21.4%となっている。

「残されているのは結婚差別」では、男性 18.8%と女性 19.3%で、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」では、男性 14.8%と女性 10.5%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 7 今、部落差別にはどのような実態があると思いますか。あなたの考えに近いものをお選びください。(○は1つだけ)

- 1 昔はあったが今はない
- 2 残されているのは結婚問題だけ
- 3 教育・就労の面で差別あり
- 4 部落の人々に対する根強い差別意識があると思う
- 5 わからない

表 4-1. 現在の部落差別の実態認識—前回調査との比較

調査年度	現在の部落差別の実態認識	残されているのは結婚差別	教育・就労の面で差別がある	部落の土地を避ける	部落の人々に対する根強い差別意識があると思う	今もなお、多くの分野で格差や差別などがある	昔はあったが今はない	わからない	無回答	計
平成17年		21.1%	3.2%		32.1%		17.2%	23.5%	2.8%	100.0% (2402)
平成27年		18.5%	1.1%	8.2%	12.2%	9.4%	21.8%	23.3%	5.5%	100.0% (2138)

表 4-1 は、現在の部落差別の実態認識について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と回答した人が、今回調査 12.2%で前回調査 32.1%となっているが、前回調査の選択肢に無かった「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」は 9.4%、「部落の土地を避ける」は 8.2%であった。

図 4-8. 現在の部落差別の実態認識—年齢別

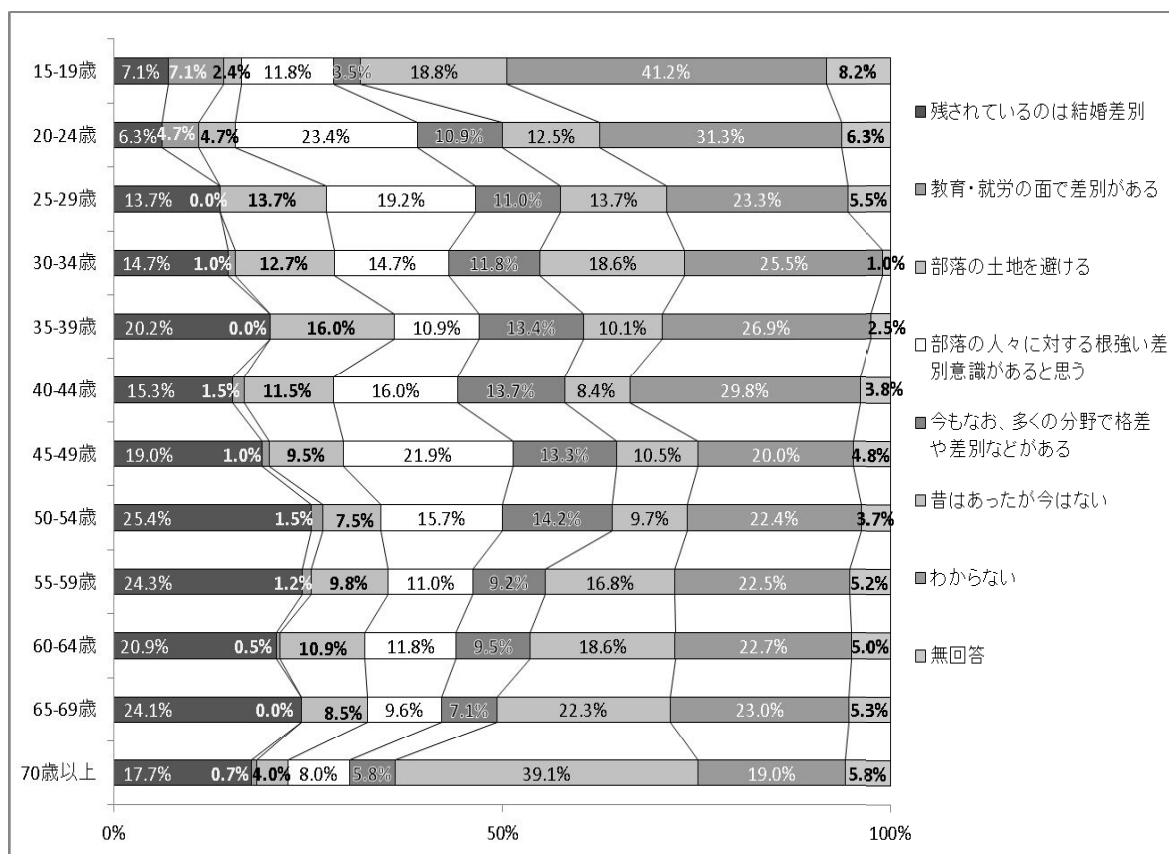


図 4-8 は、現在の部落差別の実態認識を年齢別にみたものである。

「昔はあったが今はない」と回答した人は、「70 歳以上」39.1%が最も高く、次いで「65～69 歳」22.3%となっている。

「残されているのは結婚差別」と回答した人は、「50～54 歳」25.4%が最も高く、次いで「55～59 歳」24.3%、「65～69 歳」24.1%となっている。

「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と回答した人は、「20～24 歳」23.4%が最も高く、次いで「45～49 歳」21.9%となっている。

「わからない」と回答した人は、「15～19 歳」41.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」31.3%、「40～44 歳」29.8%となっている。

表 4-2. 「他人の人権の侵害意識の有無」と「現在の部落差別の実態認識」との関連性

現在の部落差別の実態認識 他人の人権の侵害意識の有無	残されているのは結婚差別	教育・就労の面で差別がある	部落の土地を避ける	部落の人々に対する根強い差別意識があると思う	今もなお、多くの分野で格差や差別などがある	昔はあったが今はない	わからない	無回答	計
していると思う	18.8%	2.1%	9.4%	21.5%	21.5%	12.0%	12.0%	2.6%	100.0%(191)
そうは思わない	19.7%	0.9%	8.1%	10.3%	7.5%	25.7%	22.8%	5.0%	100.0%(1504)
わからない	16.2%	1.5%	8.2%	15.9%	10.3%	10.9%	32.4%	4.7%	100.0%(340)

表 4-2 は、問 1-2 「他人の人権の侵害意識の有無」と問 4-2 「現在の部落差別の実態認識」との関連性をみたものである。

「他人の人権の侵害意識の有無」について「していると思う」と回答した人の「現在の部落差別の実態認識」は、「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」と「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」が共に 21.5%と最も高く、次いで「残されているのは結婚差別」18.8%となっている。

「そうは思わない」と回答した人については、「昔はあったが今はない」25.7%と最も高く、次いで「わからない」22.8%、「残されているのは結婚差別」19.7%となっている。

**問5 あなたは、同和（部落）問題解決のためには、どうしたらよいとお考えですか。
重要だと思うものをお選びください。（〇はいくつでも）**

図 5-1. 同和（部落）問題解決のために—全体・性別

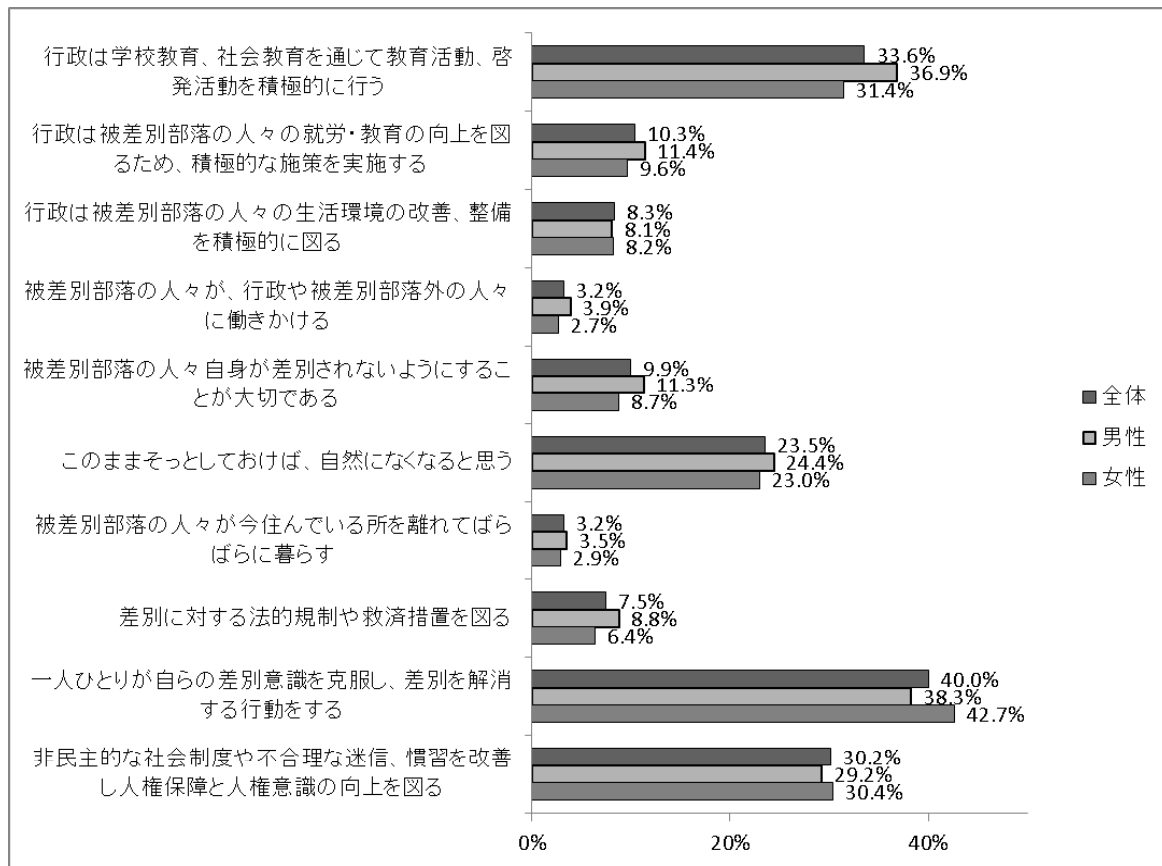


図 5-1 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策についてみたものである。

同和（部落）問題解決のためには、どうしたらよいと思うかの問いでは、「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人が全体で 40.0%と最も高く、次いで「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」33.6%、「非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る」30.2%、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」23.5%となっている。

性別では、「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人は、男性 36.9%と女性 31.4%となっている。

また、「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人では、男性 38.3%と女性 42.7%で、「非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る」では、男性 29.2%と女性 30.4%で、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」では、男性 24.4%と女性 23.0%となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問6 あなたは、同和問題解決のためには、どうしたらよいとお考えですか。

重要だと思うものをお選びください。（○はいくつでも）

- 1 このままそっとしておけば、自然になくなると思う
- 2 行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う
- 3 行政は同和地区の人々の就労・教育の向上を図るため、積極的な施策を実施する
- 4 同和地区の人々が、行政や被差別部落外の人々に働きかける
- 5 差別に対する法的規制や救済措置を図る被
- 6 行政は同和地区の生活環境の改善、整備を積極的に行う
- 7 一人一人が自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする
- 8 同和地区の人々が差別されないようにすることが大切である
- 9 同和地区の人々が今住んでいる所を離れてばらばらになれば差別はなくなる
- 10 非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る

表 5-1. 同和（部落）問題解決のために一前回調査との比較

調査年度	同和（部落）問題解決のために	行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う	行政は被差別部落の人々の就労・教育の向上を図るため、積極的な施策を実施する	行政は被差別部落の人々の生活環境の改善、整備を積極的に行う	被差別部落の人々が、行政や被差別部落外の人々に働きかける	被差別部落の人々自身が差別されないようにすることが大切である	このままそっとしておけば、自然になくなると思う	被差別部落の人々が今住んでいる所を離れてばらばらに暮らす	差別に対する法的規制や救済措置を図る	一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする	非民主的な社会制度や不合理な迷信、慣習を改善し人権保障と人権意識の向上を図る	計
平成17年		29.1%	10.2%	6.3%	3.8%	12.9%	26.5%	4.9%	9.7%	45.0%	34.3%	182.6% (4387)
平成27年		33.6%	10.3%	8.3%	3.2%	9.9%	23.5%	3.2%	7.5%	40.0%	30.2%	169.7% (3629)

表 5-1 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策について前回調査との比較をみたものである。

選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「このままそっとしておけば、自然になくなると思う」と回答した人が、今回調査 23.5%で前回調査 26.5%となっている。

また、「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人が、今回調査 33.6%で前回調査 29.1%となっている。

図 5-2. 同和（部落）問題解決のために一年齢別

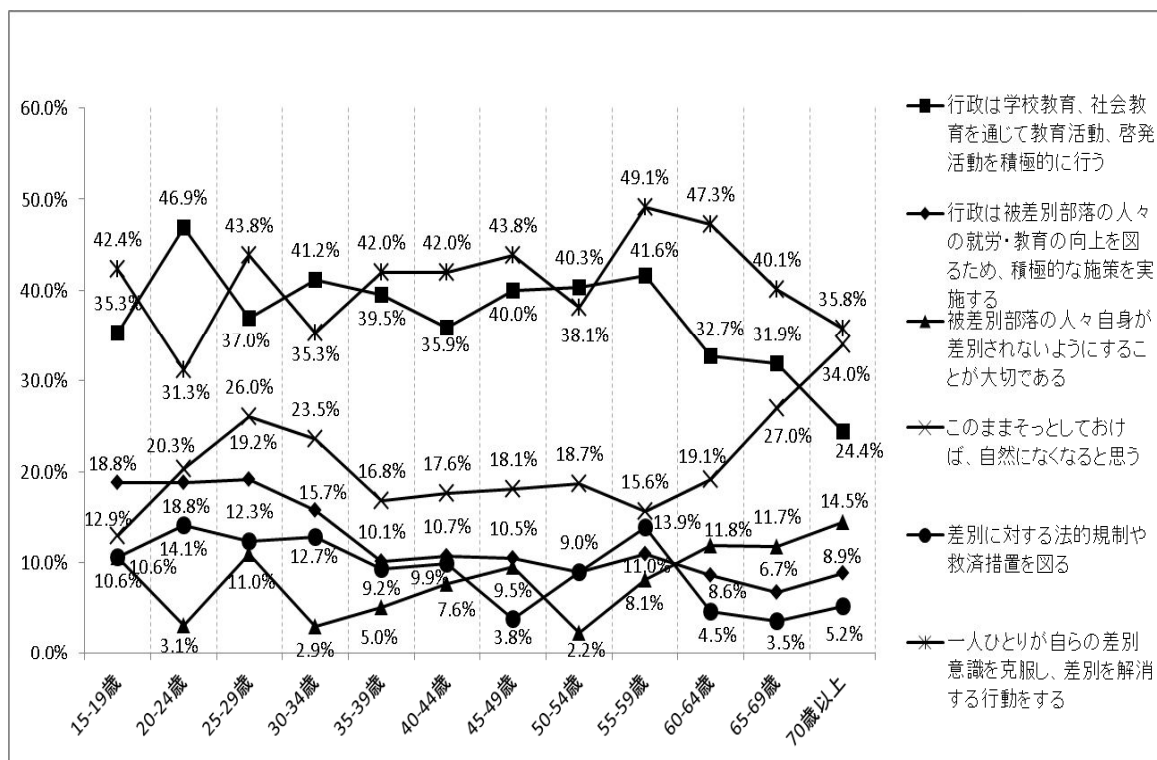


図 5-2 は、同和（部落）問題解決のために必要な方策について年齢別にみたものである。

「一人ひとりが自らの差別意識を克服し、差別を解消する行動をする」と回答した人は、「55～59 歳」49.1%が最も高く、次いで「60～64 歳」47.3%となっている。

「行政は学校教育、社会教育を通じて教育活動、啓発活動を積極的に行う」と回答した人は、「20～24 歳」46.9%が最も高く、次いで「55～59 歳」41.6%、「30～34 歳」41.2%となっている。

「このままそっとしておけば、自然になくなくなると思う」と回答した人は、「70 歳以上」34.0%が最も高く、次いで「65～69 歳」27.0%となっている。

問6 同和（部落）問題とあなたご自身とのかかわりについて、あなたはどのようにお考えですか。（○は1つだけ）

図 6-1. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり—全体・性別

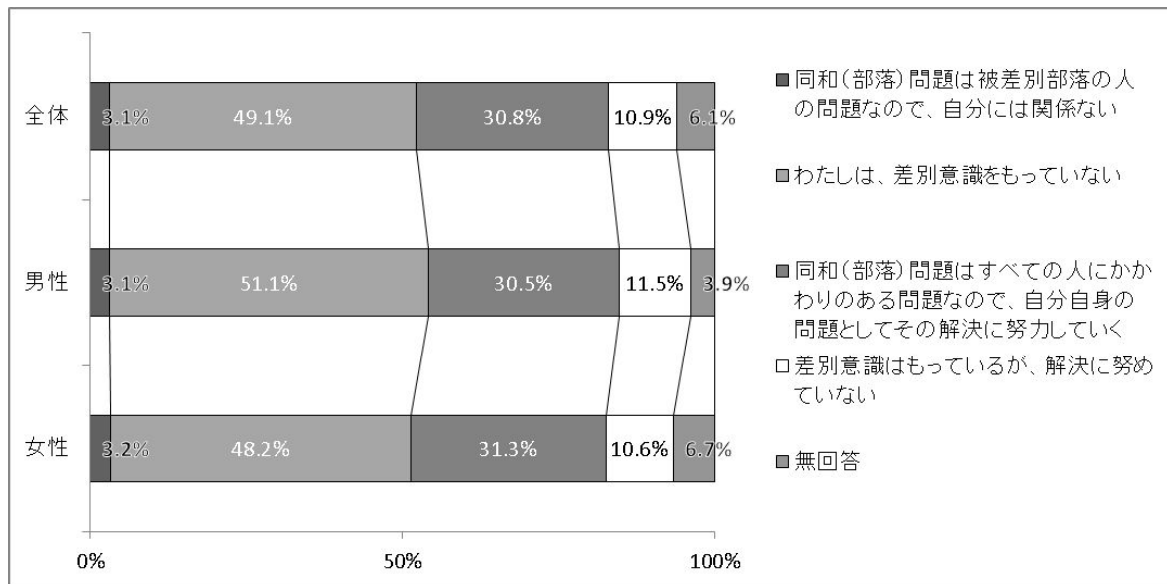


図 6-1 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりをみたものである。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は全体で **49.1%**と最も高く、次いで「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」**30.8%**、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」**10.9%**となっている。

性別では、「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人は、男性 **51.1%**と女性 **48.2%**となっている。また、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」では、男性 **30.5%**と女性 **31.3%**となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 10 同和問題とあなたご自身とのかかわりについて、あなたはどのようにお考えでしょうか。（○は1つだけ）

- 1 同和地区の人たちの問題なので、自分には関係ない
- 2 差別意識をもっていないので、関係ない
- 3 同和問題はすべての人にかかわりのある人権問題であり、自分自身の問題としてその解決に努力していく
- 4 差別意識はもっているが、解決に努めていない

表 6-1. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり—前回調査との比較

同和（部落）問題と自分自身とのかかわり 調査年度	同和（部落）問題は被差別部落の人の問題なので、自分には関係ない	わたしは、差別意識をもっていない	同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく	差別意識はもっているが、解決に努めていない	無回答	計
平成17年	4.2%	36.1%	40.1%	13.2%	6.4%	100.0%(2402)
平成27年	3.1%	49.1%	30.8%	10.9%	6.1%	100.0%(2138)

表 6-1 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりについて前回調査との比較をみたものである。選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」が、今回調査 30.8%で前回調査 40.1%と比較して 9.3 ポイント低くなっている。

表 6-2. 「他人の人権の侵害意識の有無」と「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」との関連性

同和（部落）問題と自分自身とのかかわり 他人の人権の侵害意識の有無	同和（部落）問題は被差別部落の人の問題なので、自分には関係ない	わたしは、差別意識をもっていない	同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく	差別意識はもっているが、解決に努めていない	無回答	計
していると思う	5.2%	28.8%	38.2%	23.6%	4.2%	100.0%(191)
そうは思わない	2.5%	54.5%	29.1%	8.7%	5.2%	100.0%(1504)
わからない	5.6%	40.0%	33.5%	13.5%	7.4%	100.0%(340)

表 6-2 は、問 1-2「他人の人権の侵害意識の有無」と問 6「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」との関連性についてみたものである。

「他人の人権の侵害意識の有無」で「していると思う」と回答した人については、「同和（部落）問題と自分自身のかかわり」は、「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」38.2%が最も高く、次いで「わたしは、差別意識をもっていない」28.8%、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」23.6%となっている。

「そうは思わない」と回答した人については、「わたしは、差別意識をもっていない」54.5%が最も高く、次いで「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」29.1%、「差別意識はもっているが、解決に努めていない」8.7%となっている。

図 6-2. 同和（部落）問題と自分自身とのかかわり一年齢別

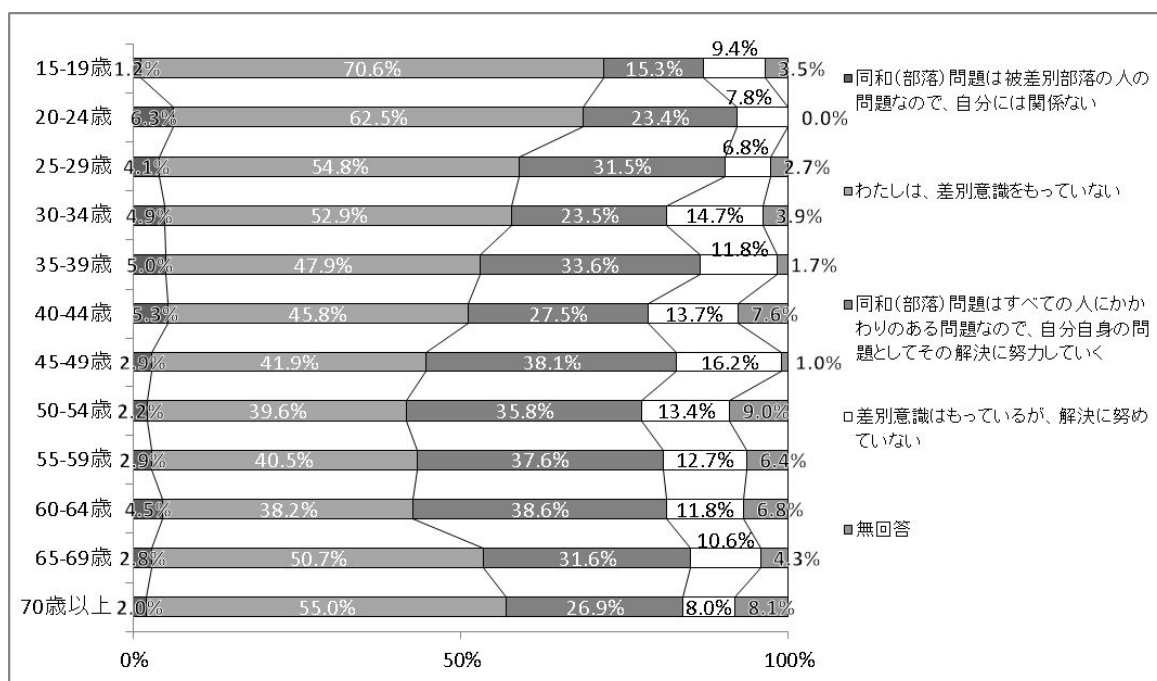


図 6-2 は、同和（部落）問題と自分自身とのかかわりを年齢別にみたものである。

「わたしは、差別意識をもっていない」と回答した人では、「15～19 歳」70.6%が最も高く、次いで「20～24 歳」62.5%、「70 歳以上」55.0%となっている。

「同和（部落）問題はすべての人にかかわりのある問題なので、自分自身の問題としてその解決に努力していく」と回答した人では、「60～64 歳」38.6%が最も高く、次いで「45～49 歳」38.1%、「55～59 歳」37.6%となっている。

「差別意識はもっているが、解決に努めていない」と回答した人では、「45～49 歳」16.2%が最も高く、次いで「30～34 歳」14.7%、「40～44 歳」13.7%となっている。

問 7-1 もし、あなたが結婚するときに、相手が被差別部落の人であることを理由に反対されたらどうしますか。(○は1つだけ)

性別	本来、結婚は、両性の合意のもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する	自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう	家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す	わからない	その他
全体	23.6%	35.7%	8.1%	26.6%	2.0%
男性	29.5%	35.2%	6.0%	25.0%	1.9%
女性	18.7%	37.5%	9.6%	27.9%	2.0%

「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は全体で **35.7%**と最も高く、次いで、「わからない」 **26.6%**、「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」 **23.6%**となっている。

性別では、「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は、男性 35.2%、女性 37.5%となっている。また、「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」は、男性 29.5%、女性 18.7%となっている。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

- 1 本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する
- 2 自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう
- 3 家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す
- 4 その他（具体的に： ）
- 5 わからない

表 7-1. あなた自身の結婚について一前回調査との比較

被差別部落を理由に結婚を反対されたらどうするか 調査年度	本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する	自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう	家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す	わからない	その他	無回答	計
平成17年	25.7%	40.8%	10.9%	17.3%	2.5%	2.9%	100.0%(2402)
平成27年	23.6%	35.7%	8.1%	26.6%	2.0%	4.0%	100.0%(2138)

表 7-1 は、あなた自身の結婚について前回調査との比較をみたものである。設問・選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「わからない」と回答した人が、今回調査 26.6%で前回調査 17.3%と比較して 9.3 ポイント高くなっている。

図 7-2. あなた自身の結婚について一年齢別

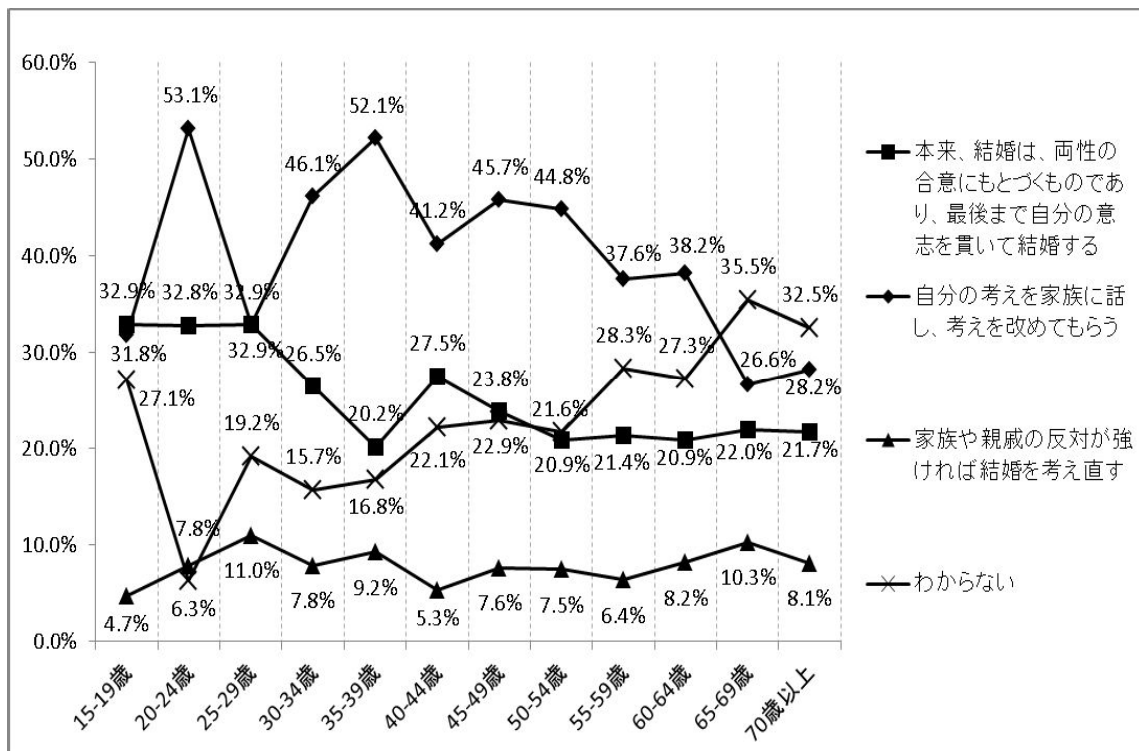


図 7-2 は、結婚するとき、相手が被差別部落の人であることを理由に反対されたらどうするかを年齢別にみたものである。

「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人は、「20～24 歳」 53.1% が最も高く、次いで「35～39 歳」 52.1%となっている。

「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」と回答した人では、「15～19 歳」と「25～29 歳」が 32.9%で最も高く、次いで「20～24 歳」 32.8%となっている。

問 7-2 あなたに未婚の子がいると仮定して、その子が結婚するとき相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

図 7-3. 子どもの結婚について—全体・性別

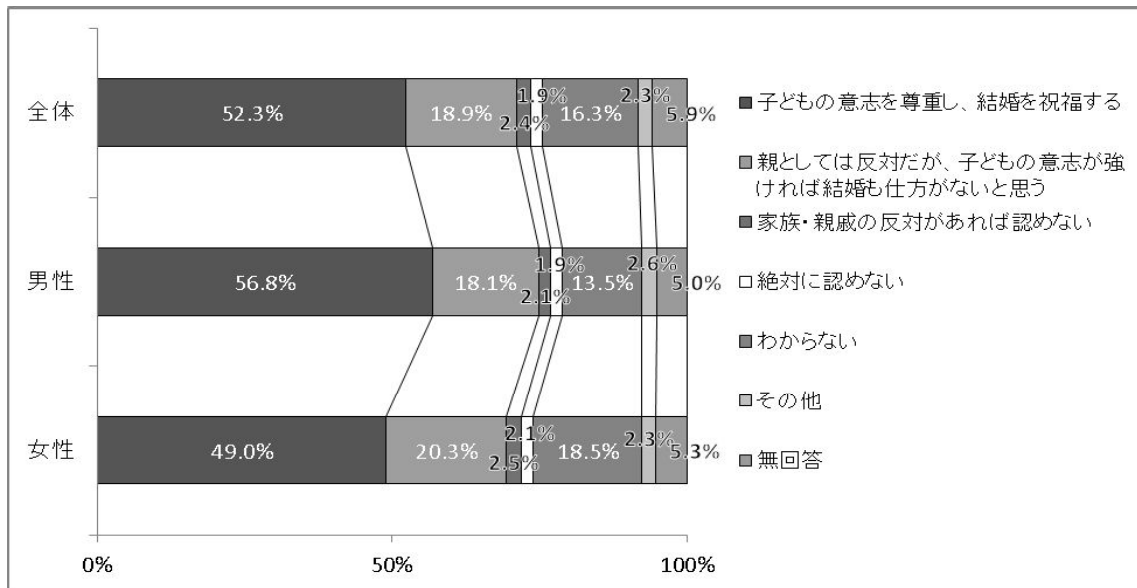


図 7-3 は、子どもが結婚しようとするときに相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにするかをみたものである。

「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人が全体では 52.3% と最も高く、次いで「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」18.9%、「わからない」16.3%となっている。

性別では、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人は、男性 56.8%、女性 49.0% で、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は、男性 18.1%、女性 20.3% となっている。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査 (H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査)

問 1 2 もし、あなたの子どもが結婚しようとする相手が被差別部落の人であるとわかったとき、あなたはどのようにしますか。(○は1つだけ)

- 1 子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する
- 2 親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う
- 3 家族・親戚の反対があれば認めない
- 4 絶対に認めない
- 5 その他 ()
- 6 わからない

表 7-2. 子どもの結婚について一前回調査との比較

調査年度	子どもが結婚しようとするときどうするか	子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する	親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う	家族・親戚の反対があれば認めない	絶対に認めない	わからない	その他	無回答	計
平成17年		50.9%	23.0%	4.0%	2.5%	13.4%	3.4%	2.9%	100.0% (2402)
平成27年		52.3%	18.9%	2.4%	1.9%	16.3%	2.3%	5.9%	100.0% (2138)

表 7-2 は、子どもの結婚について前回調査との比較をしたものである。設問・選択肢が一部異なっているため単純な比較はできないが、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人が、今回調査 52.3%で前回調査 50.9%となっている。

図 7-4. 子どもの結婚について一年齢別

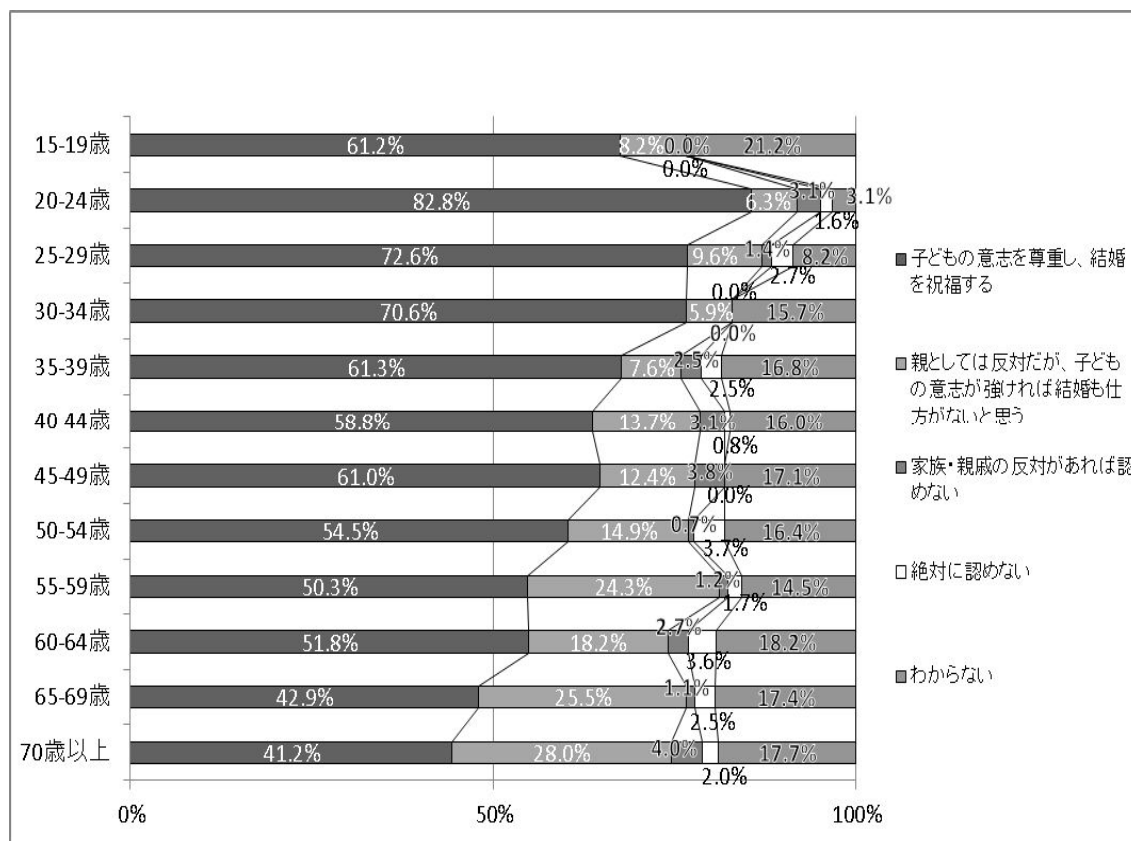


図 7-4 は、子どもが結婚しようとする時どうするかを年齢別にみたものである。

「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人は、「20～24 歳」82.8%が最も高く、次いで「25～29 歳」72.6%、「30～34 歳」70.6%となっている。

「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は、「70 歳以上」28.0%が最も高く、次いで「65～69 歳」25.5%となっている。

図 7-5. 「あなた自身の結婚について」と「子どもの結婚について」との関連性

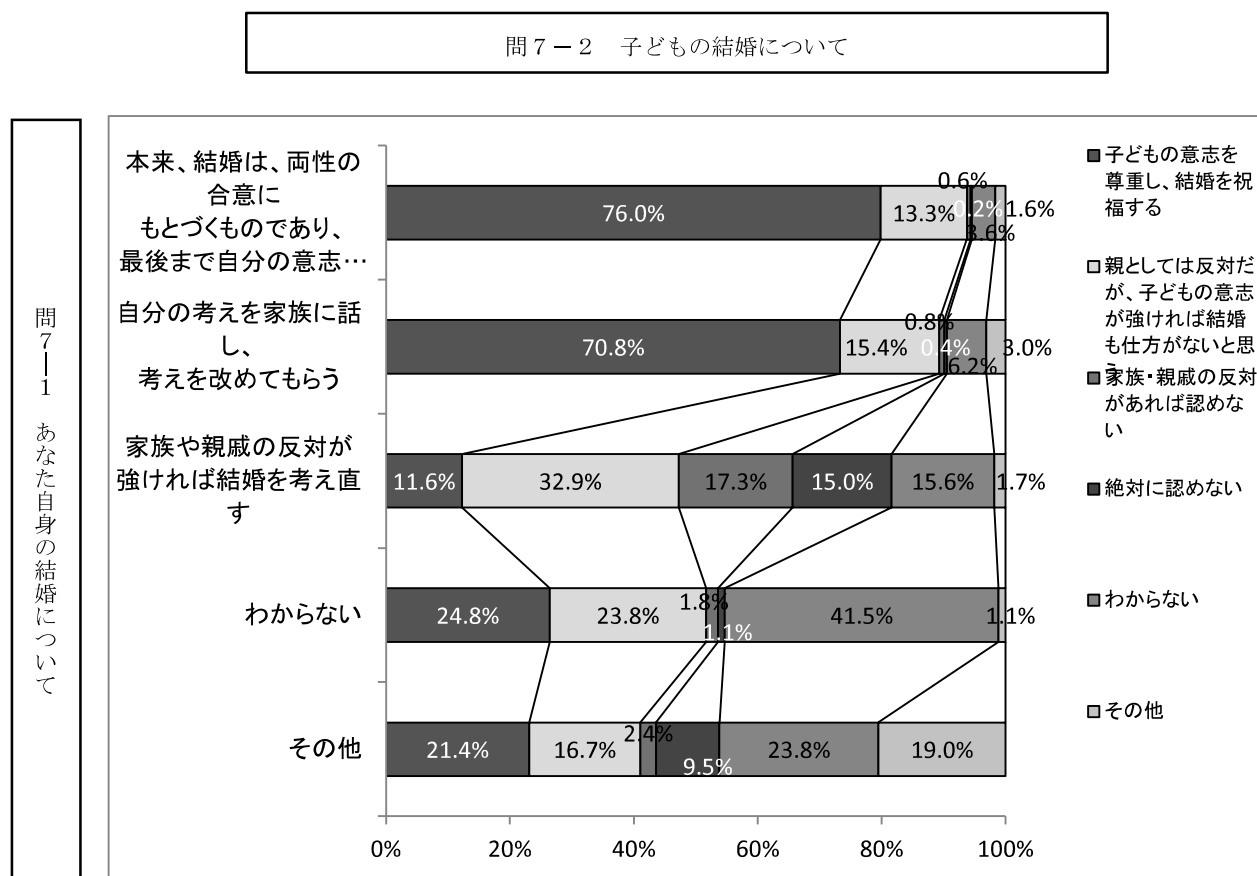


図 7-5 は、問 7-1 の「あなた自身の結婚について」と問 7-2 の「子どもの結婚について」の関係をみたものである。

自身の結婚について「本来、結婚は、両性の合意にもとづくものであり、最後まで自分の意志を貫いて結婚する」と「自分の考えを家族に話し、考えを改めてもらう」と回答した人の中で、子どもの結婚について「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」と回答した人はそれぞれ、76.0%、70.8%となっている。

また、自身の結婚について「家族や親戚の反対が強ければ結婚を考え直す」回答した人の中で、子どもの結婚については、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方がないと思う」と回答した人は 32.9%で最も高く、次いで「家族・親戚の反対があれば認めない」17.3%、「わからない」15.6%、「絶対に認めない」15.0%となっている。

問 7-3 あなたに未婚の子がいると仮定して、その子が結婚するときに、家柄、親の職業や社会的地位などについて、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思いますか。(○は1つだけ)

図 7-6. 子どもの結婚の身元調査について—全体・性別

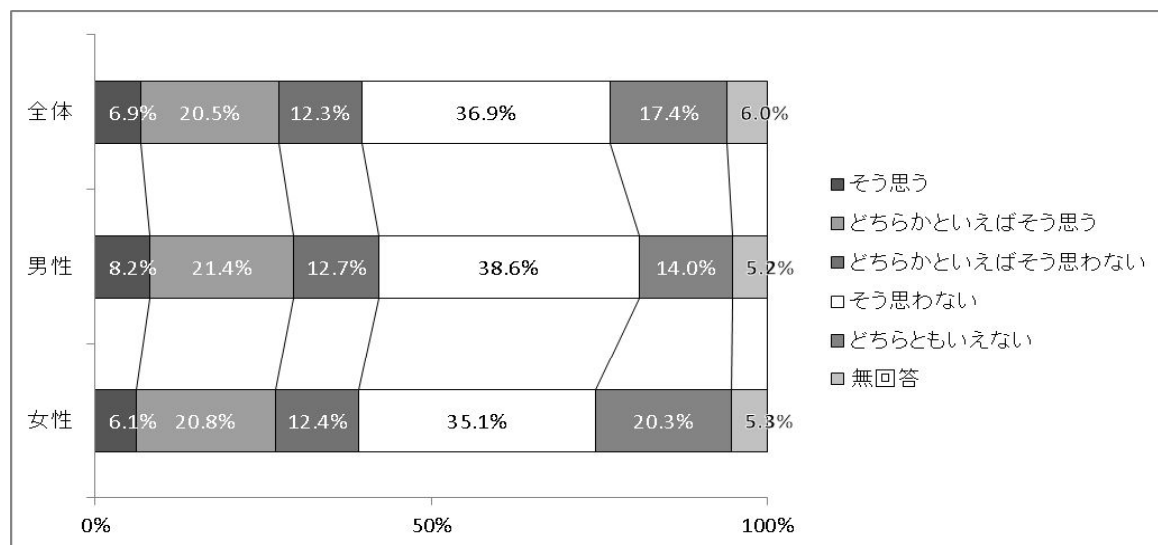


図 7-6 は、自分の子どもが結婚するとき、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思うかどうかについてみたものである。

「そう思わない」と回答した人は全体では 36.9%で最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」20.5%、「わからない」17.4%となっている。

身元調査を肯定する回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）は 27.4%で、否定する回答（「そう思わない」または「どちらかといえばそう思わない」）は 49.2%で、「どちらともいえない」は 17.4%であった。

性別では、「そう思う」と回答した人は、男性 8.2%、女性 6.1%で、「どちらかといえばそう思う」と回答した人は、男性 21.4%、女性 20.8%となっている。

また、「そう思わない」と回答した人は、男性 38.6%、女性 35.1%で、「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は、男性 12.7%、女性 12.4%となっている。

図 7-7. 子どもの結婚の身元調査について一年齢別

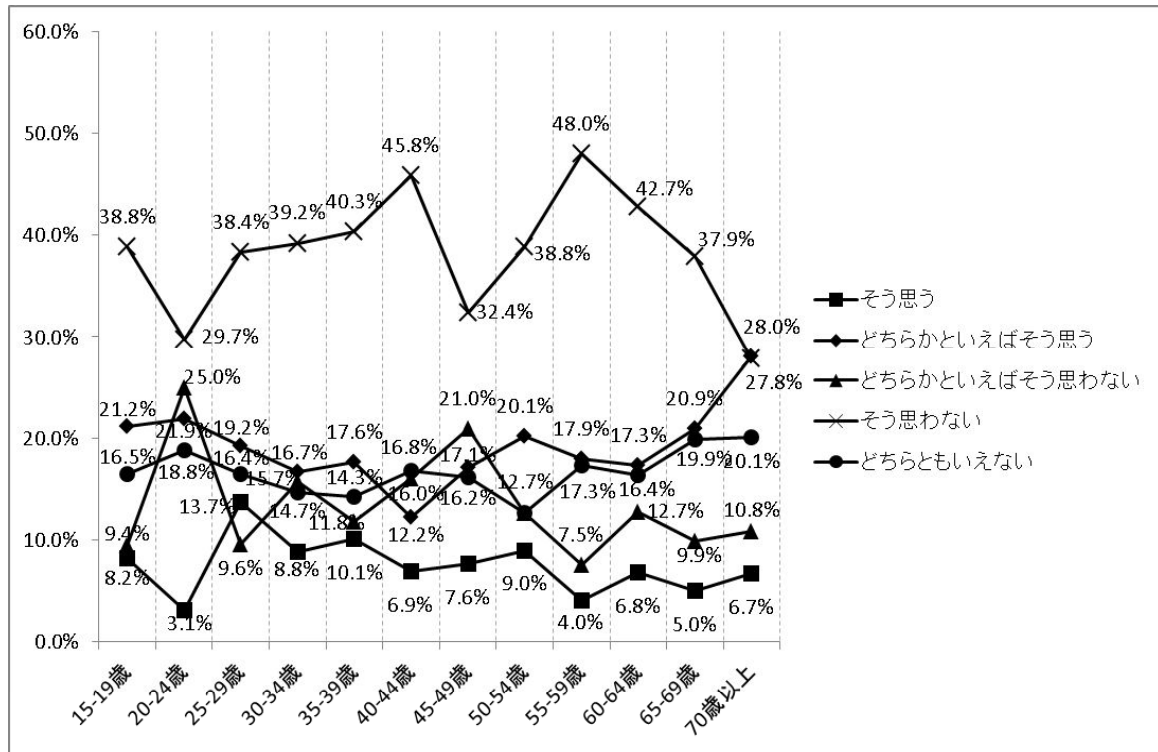


図 7-7 は、自分の子どもが結婚するとき、親の立場から相手方の身元調査を行うことはやむを得ないと思うかどうかについて、年齢別にみたものである。

「そう思わない」と回答した人は、「55～59 歳」48.0%が最も高く、次いで「40～44 歳」45.8%、「60～64 歳」42.7%となっている。

「どちらかといえばそう思わない」と回答した人は、「20～24 歳」25.0%が最も高く、次いで「45～49 歳」21.0%となっている。

「どちらかといえばそう思う」と回答した人では、「70 歳以上」28.0%が最も高く、次いで「20～24 歳」21.9%となっている。

「そう思う」と回答した人では、「25～29 歳」13.7%が最も高く、次いで「35～39 歳」10.1%となっている。

身元調査を肯定する回答（「そう思う」または「どちらかといえばそう思う」）では、「70 歳以上」34.7%が最も高く、次いで「25～29 歳」32.9%となっている。

図 7-8. 「子どもの結婚の身元調査について」と「現在の部落差別の実態認識」との関連性

問 7-3 身元調査について—子どもが結婚するとき

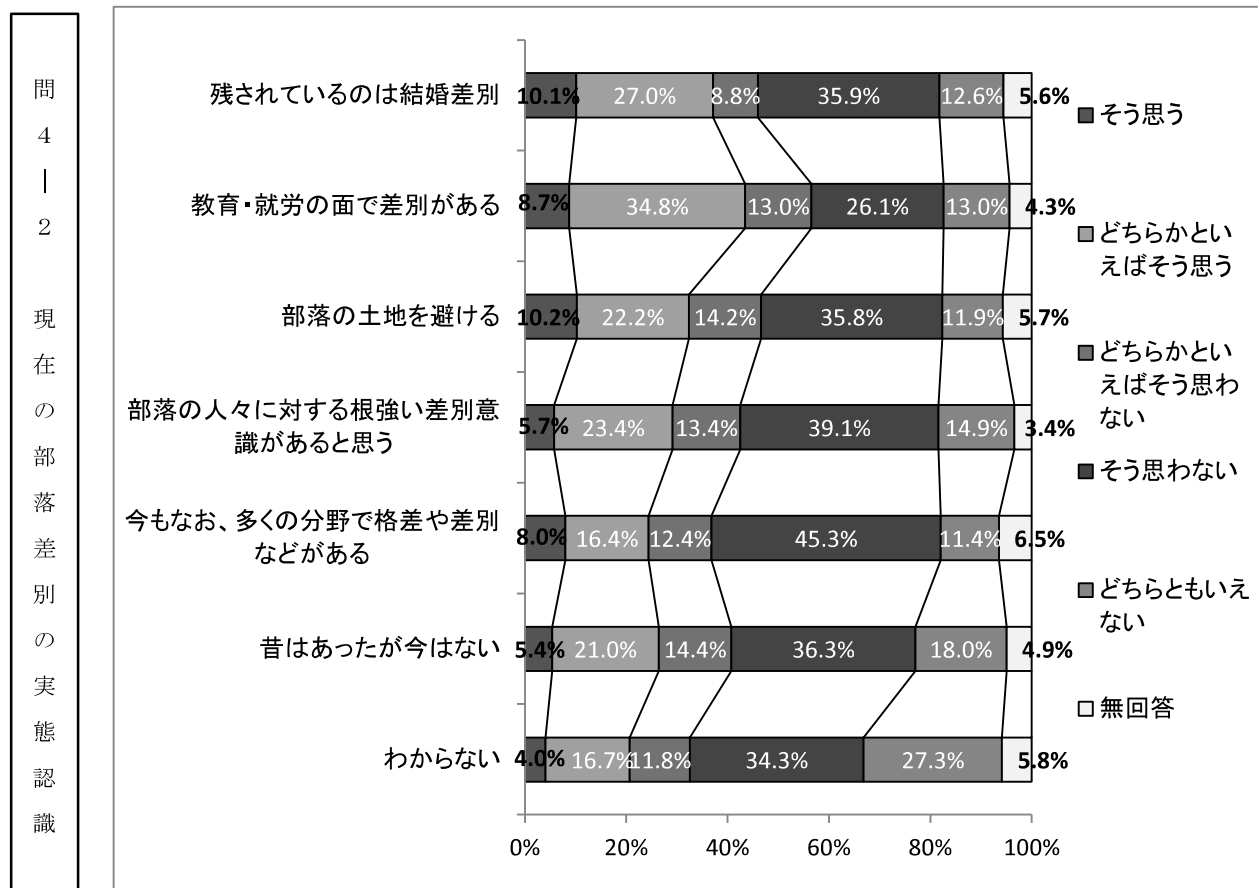


図 7-8 は、問 4-2 の「部落差別の実態認識」と問 7-3 の「身元調査について」の関係をみたものである。

身元調査を肯定する回答（「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」）は、「教育・就労の面で差別がある」43.5%と回答した人の中で最も高く、次いで「残されているのは結婚差別」37.1%、「部落の土地を避ける」32.4%となっている。

また、身元調査を否定する回答（「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」）は、「今もなお、多くの分野で格差や差別などがある」57.7%と回答した人の中で最も高く、次いで「部落の人々に対する根強い差別意識があると思う」52.5%、「昔はあったが今はない」50.7%となっている。

図 7-9. 「子どもの結婚の身元調査について」と「子どもの結婚について」との関連性

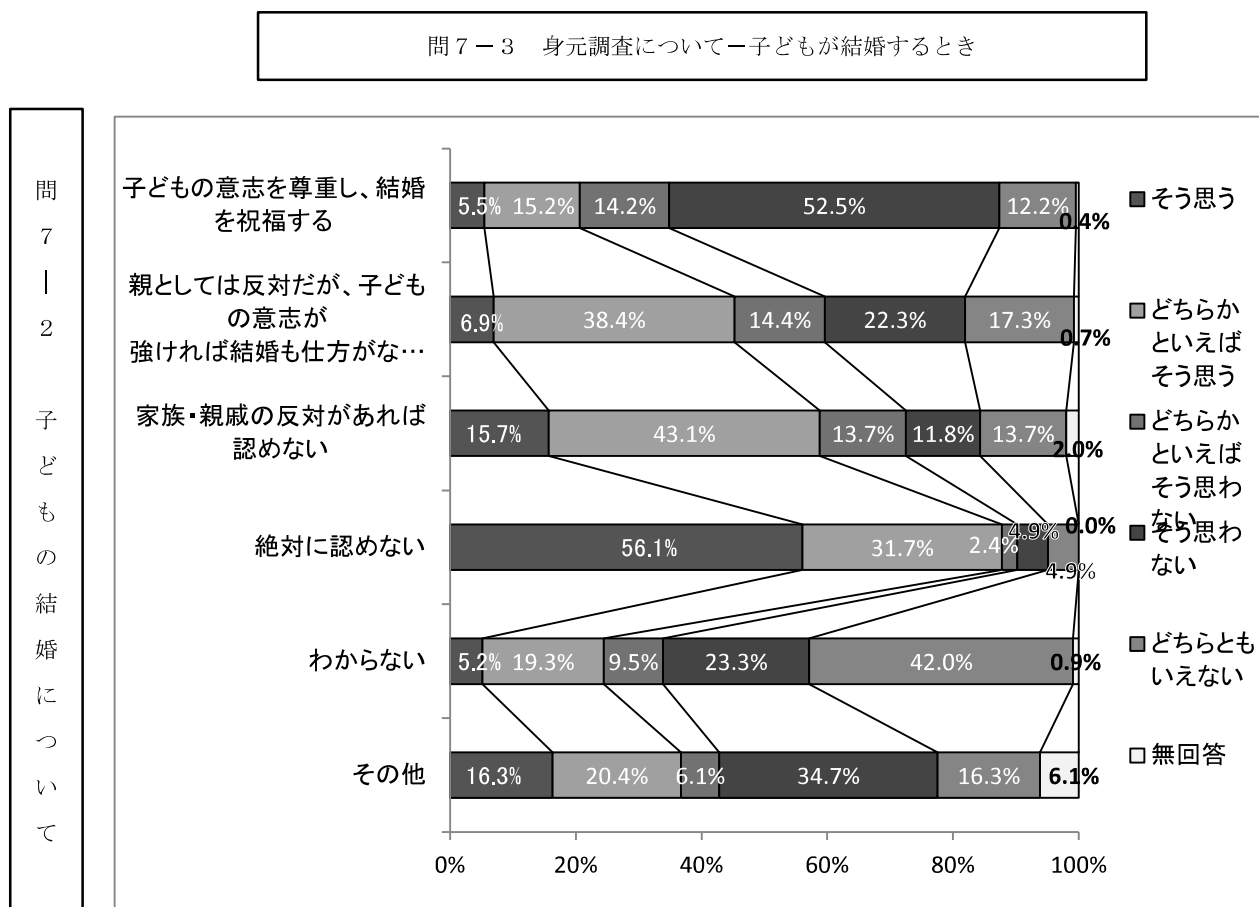


図 7-9 は、問 7-2 の「子どもの結婚について」と問 7-3 の「身元調査について」の関係をみたものである。

身元調査を肯定する回答（「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」）は、「絶対に認めない」87.8%と回答した人の中で最も高く、次いで「家族・親戚の反対があれば認めない」58.8%、「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方ないと思う」45.3%となっている。

また、身元調査を否定する回答（「3 どちらかといえばそう思わない」または「4 そう思わない」）は、「子どもの意志を尊重し、結婚を祝福する」66.7%と回答した人の中で最も高く、次いで「親としては反対だが、子どもの意志が強ければ結婚も仕方ないと思う」36.7%となっている。

問 7-4 問 7-3 で 1 または 2 と回答された方におたずねします。

その理由について、あなたの考えに近いものはどれですか。(○は 1 つだけ)

図 7-10. 身元調査をする理由—全体・性別

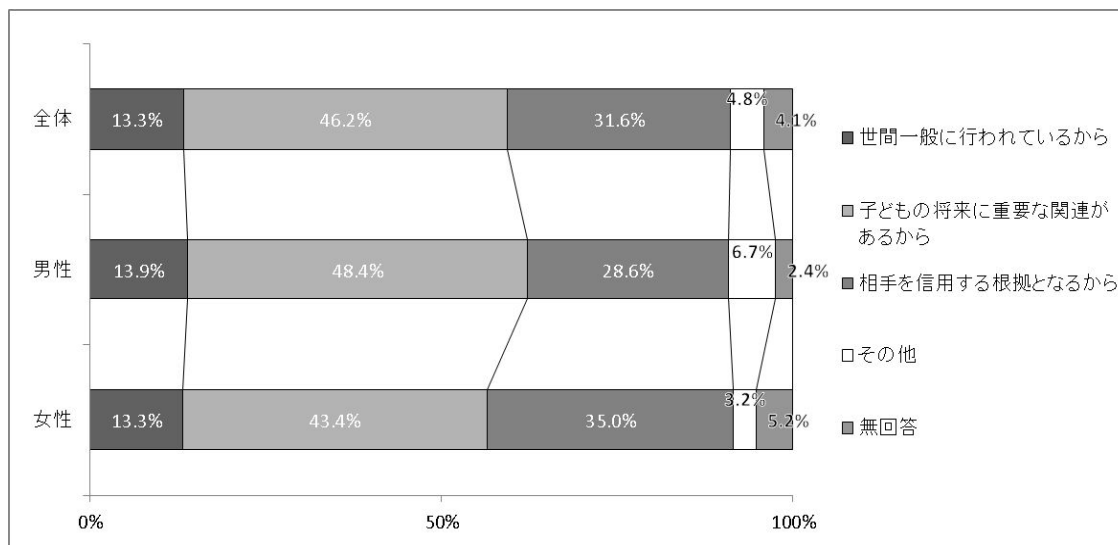


図 7-10 は、身元調査を行うことはやむを得ないと思うかについて「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した理由をみたものである。

「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人が全体では 46.2%と最も高く、次いで「相手を信用する根拠となるから」31.6%、「世間一般に行われているから」13.3%となっている。

性別では、「相手を信用する根拠となるから」と回答した人は、男性 28.6%、女性 35.0%で、「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人は、男性 48.4%、女性 43.4%となっている。

図 7-11. 身元調査をする理由—年齢別

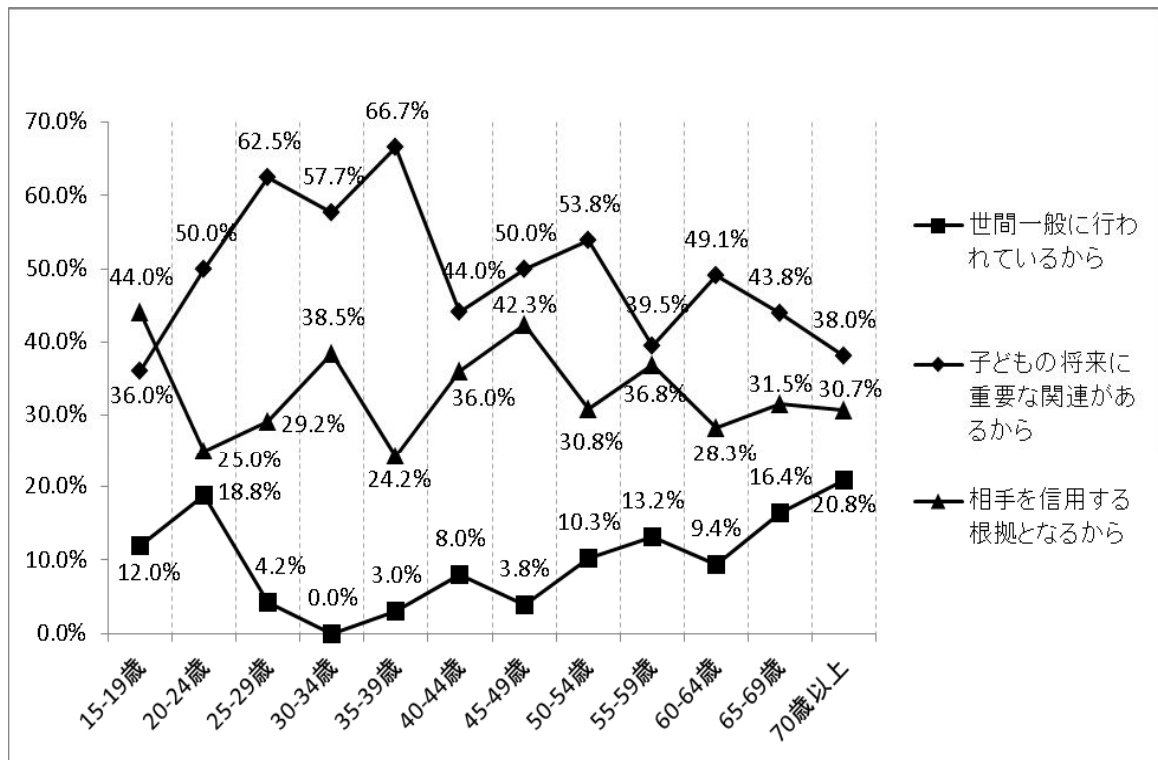


図 7-11 は、身元調査を行うことはやむを得ないと思うかについて「1 そう思う」または「2 どちらかといえばそう思う」と回答した理由を年齢別にみたものである。

「子どもの将来に重要な関連があるから」と回答した人は、「35～39 歳」66.7%が最も高く、次いで「25～29 歳」62.5%となっている。

「相手を信用する根拠となるから」と回答した人は、「15～19 歳」44.0%が最も高く、次いで「45～49 歳」42.3%、「30～34 歳」38.5%となっている。

「世間一般に行われているから」と回答した人では、「70 歳以上」20.8%が最も高く、次いで「20～24 歳」18.8%となっている。

問 8 部落差別の言動の見聞についておたずねします。

問 8-1 あなたは、最近被差別部落の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きされたことがありますか。(どちらかに○をしてください)

図 8-1. 部落差別の見聞き—全体・性別

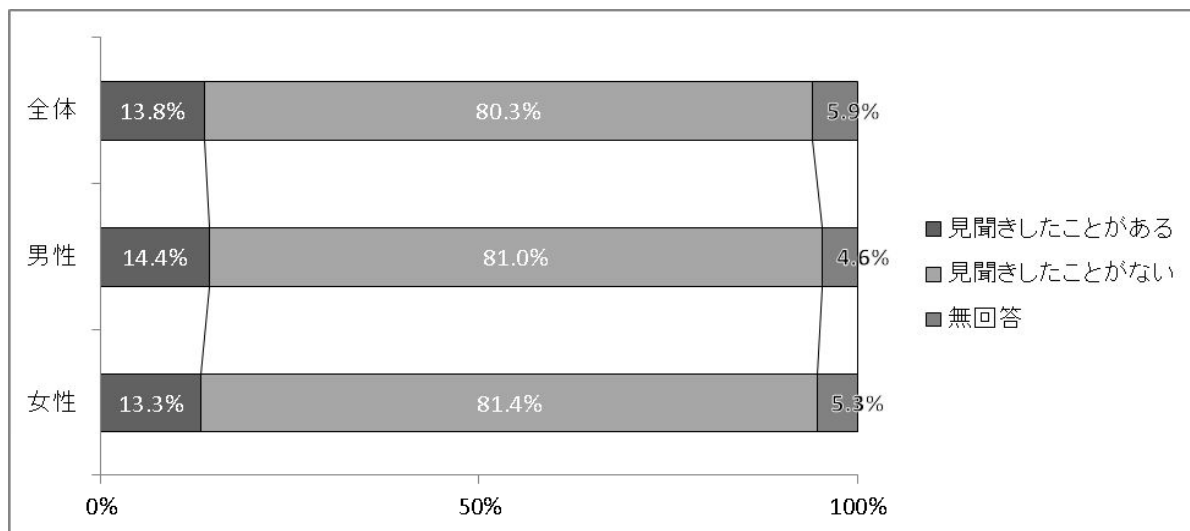


図 8-1 は、部落差別の見聞きについてみたものである。

最近、被差別部落の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きしたことがあるかの問いでは、「見聞きしたことがある」と回答した人は全体で 13.8%となっており、「見聞きしたことがない」と回答した人は 80.3%となっている。

性別では、男女別で大きな差があった選択肢はなかった。

【参考】※設問文・選択肢の文言の一部が前回の調査と異なるため、参考としてご参照ください。

前回調査（H17 鳥取市同和問題等人権問題に関する市民意識調査）

問 1 3-1 あなたは、最近同和地区の人々に対する差別的な発言や行動・落書きなどを直接見聞きされたことがありますか。(どちらかに○をしてください)

- 1 見聞きしたことがある 2 見聞きしたことがない

表 8-1. 部落差別の見聞き—前回調査との比較

調査年度	見聞きしたことがある	見聞きしたことがない	無回答	計
平成17年	14.9%	82.1%	2.9%	100.0%(2402)
平成27年	13.8%	80.3%	5.9%	100.0%(2138)

表 8-1 は、部落差別の見聞きについて前回調査との比較をしたものである。設問が一部異なっているため単純な比較はできないが、「見聞きしたことがある」と回答した人は、今回調

査 13.8%、前回調査 14.9%となっている。「見聞きしたことがない」では、今回調査 80.3%、前回調査 82.1%となっている。

図 8-2. 部落差別の見聞き一年齢別

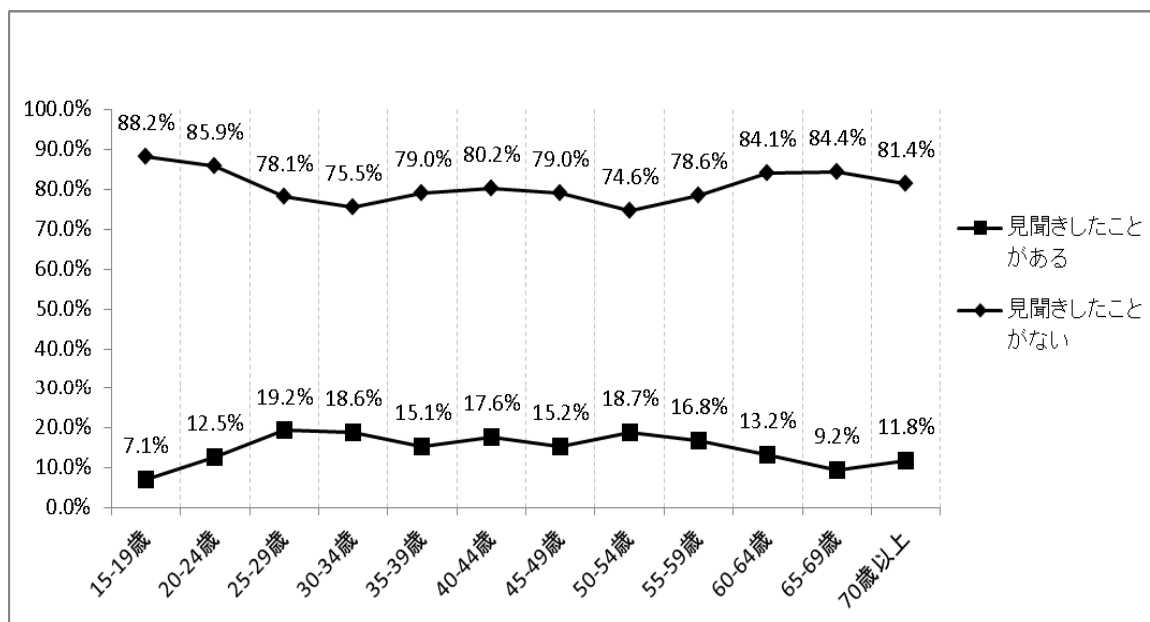


図 8-2 は、部落差別の見聞きについて年齢別にみたものである。

「見聞きしたことがある」と回答した人は、「25～29 歳」19.2%が最も高く、次いで「50～54 歳」18.7%、「30～34 歳」18.6%となっている。

「見聞きしたことがない」と回答した人は、「15～19 歳」88.2%が最も高く、次いで「20～24 歳」85.9%、「65～69 歳」84.4%となっている。

問 8-2 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

最近、見聞きしたもので、被差別部落に対する差別的な言動をしたのは次のうち誰ですか。(〇は3つまで)

図 8-3. 差別的な言動をしたのは誰か—全体・性別

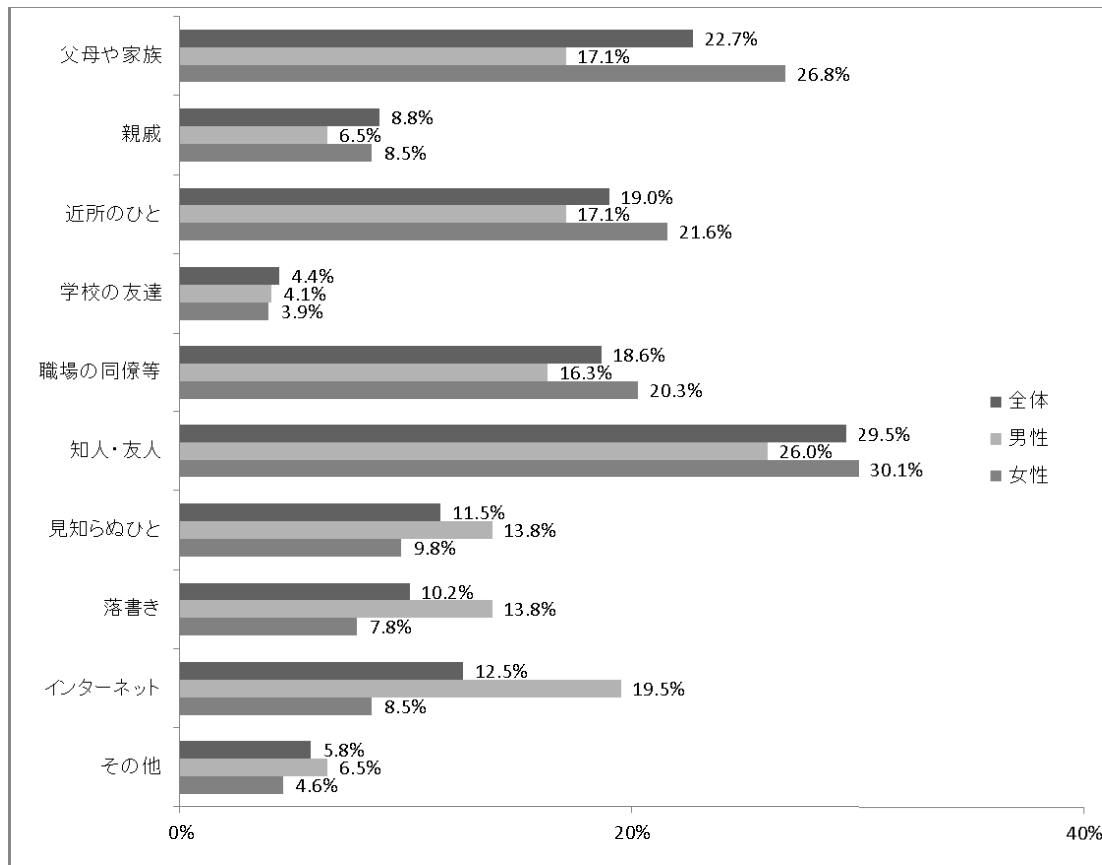


図 8-3 は、差別的な言動をしたのは誰かについてみたものである。

見聞きしたもので、被差別部落に対する差別的な言動をしたのは誰かの問いでは、「知人・友人」と回答した人が全体で 29.5% が最も高く、次いで「父母や家族」22.7%、「近所のひと」19.0% となっている。

性別では、「知人・友人」と回答した人は、男性 26.0% と女性 30.1% となっている。

また、「父母や家族」と回答した人は、男性 17.1% と女性 26.8% で、「近所のひと」と回答した人は、男性 17.1% と女性 21.6% となっている。

図 8-4. 差別的な言動をしたのは誰か―年齢別

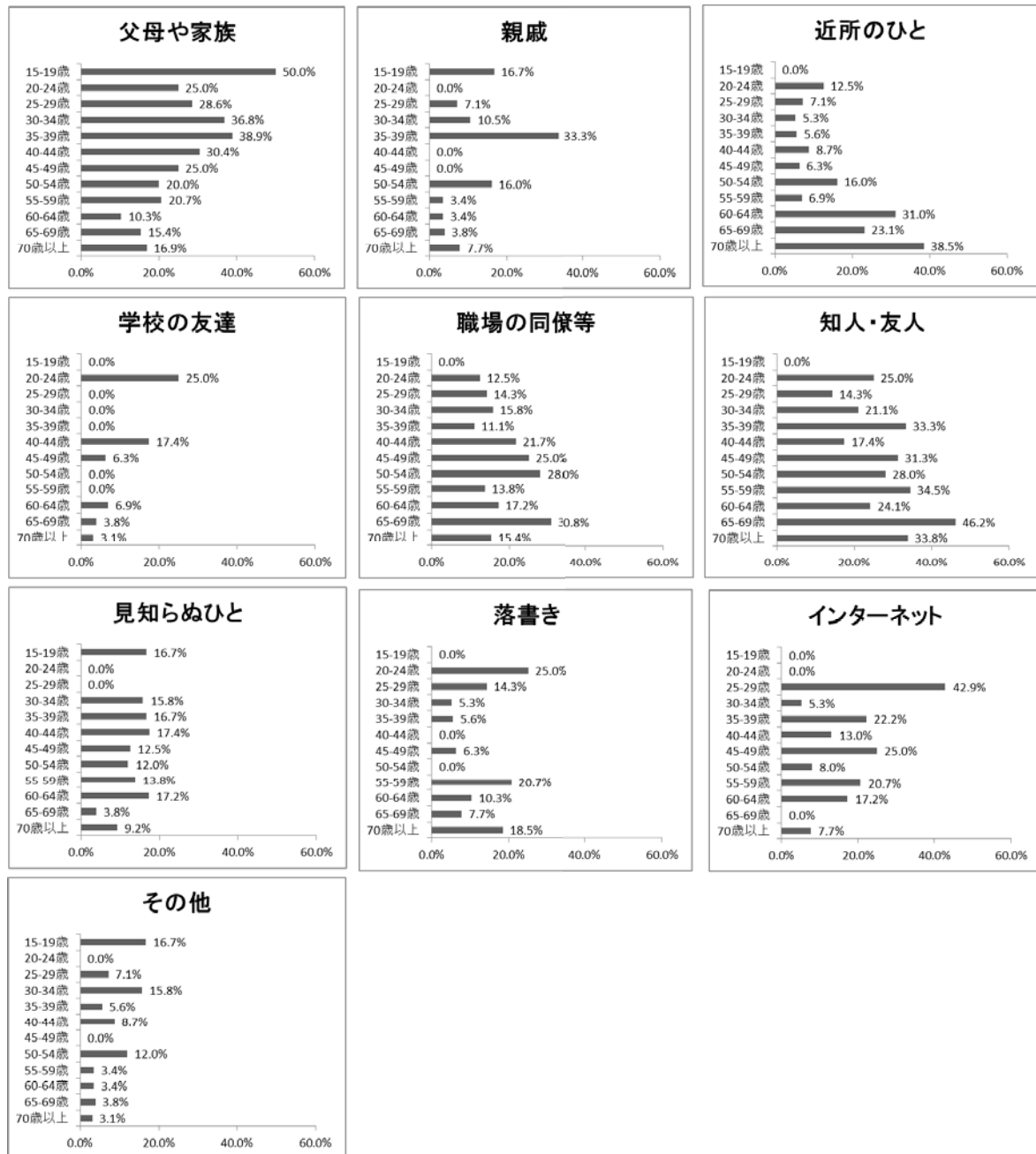


図 8-4 は、差別的な言動をしたのは誰かについて年齢別にみたものである。

「知人・友人」と回答した人は、「65～69 歳」46.2%が最も高く、次いで「55～59 歳」34.5%となっている。

「近所のひと」と回答した人は、「70 歳以上」38.5%が最も高く、次いで「60～64 歳」31.0%となっている。

問 8-3 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

その見聞きした差別的な言動は、次のうちどれですか。(〇はいくつでも)

図 8-5. 見聞きした差別的な言動は何か―全体・性別

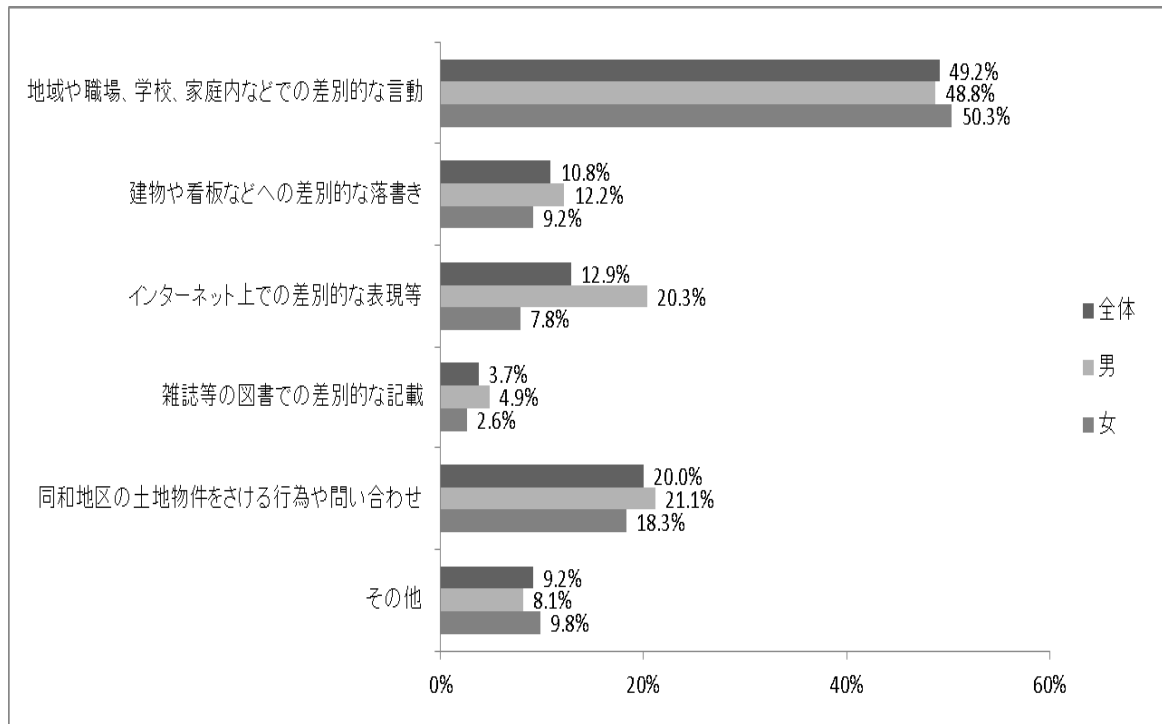


図 8-5 は、見聞きした差別的な言動は何かについてみたものである。

「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は全体で 49.2%が最も高く、次いで「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」20.0%、「インターネット上での差別的な表現等」12.9%となっている。

性別では、「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は、男性 48.8%と女性 50.3%となっている。

また、「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」と回答した人は、男性 21.1%と女性 18.3%で、「インターネット上での差別的な表現等」と回答した人は、男性 20.3%と女性 7.8%となっている。

図 8-6. 見聞きした差別的な言動は何か―年齢別

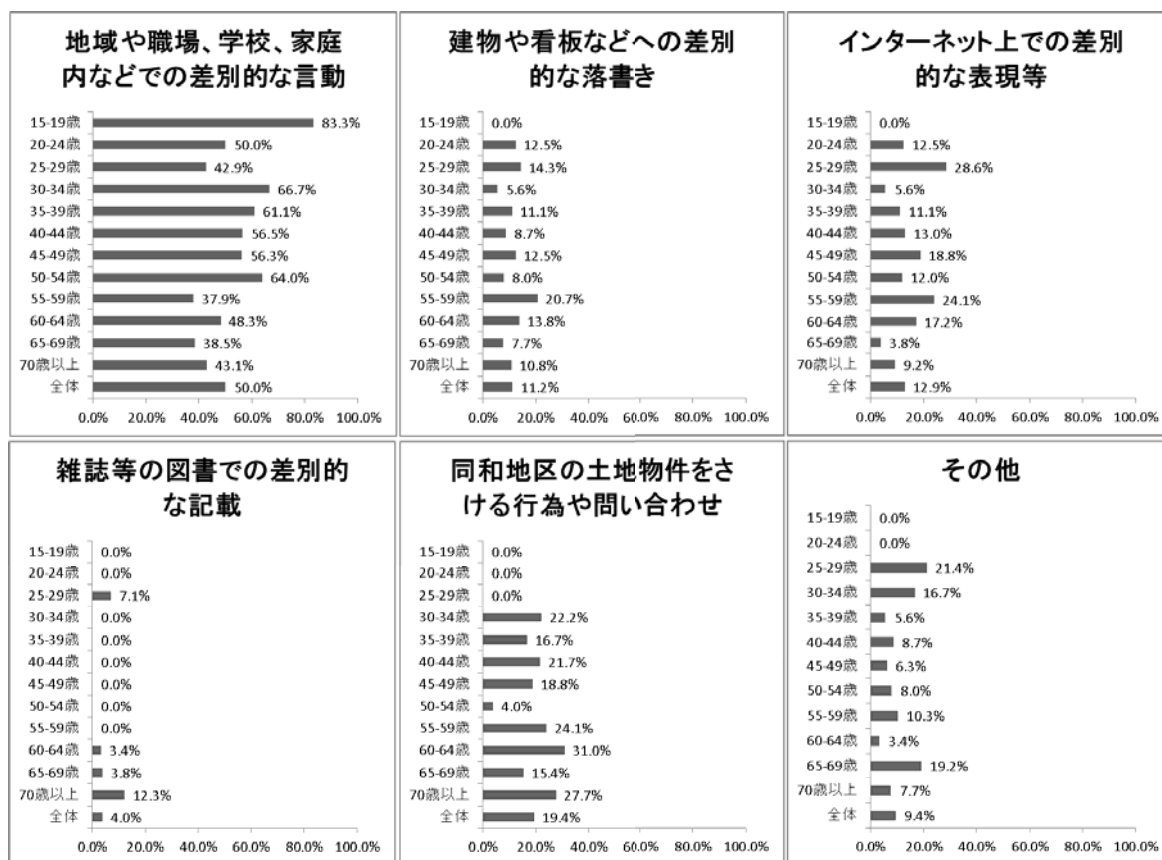


図 8-6 は、見聞きした差別的な言動は何かについて年齢別でみたものである。

「地域や職場、学校、家庭内などでの差別的な言動」と回答した人は、「15～19 歳」83.3%が最も高く、次いで「30～34 歳」66.7%、「50～54 歳」64.0%となっている。

「同和地区の土地物件をさける行為や問い合わせ」と回答した人は、「60～64 歳」31.0%が最も高く、次いで「70 歳以上」27.7%となっている。

「インターネット上での差別的な表現等」と回答した人は、「25～29 歳」28.6%が最も高く、次いで「55～59 歳」24.1%となっている。

問 8-4 問 8-1 で 1 と回答された方におたずねします。

その時、あなたはどのようにされましたか。(○は 1 つだけ)

図 8-7. 差別的な言動を見聞きした時どうしたか—全体・性別

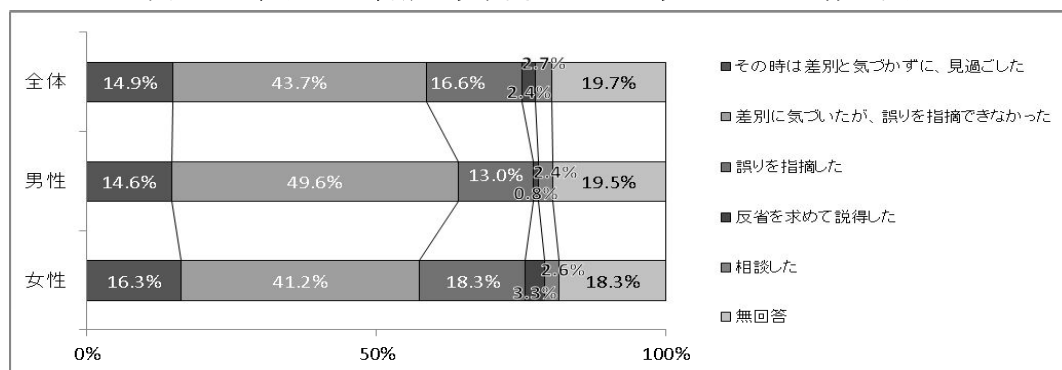


図 8-7 は、差別的な言動を見聞きした時どうしたかについてみたものである。

「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人が全体では、43.7%と最も高く、次いで「誤りを指摘した」16.6%、「その時は差別と気づかずに、見過ごした」14.9%となっている。

性別では、「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人は、男性 49.6%、女性 41.2%となっている。また、「誤りを指摘した」と回答した人は、男性 13.0%、女性 18.3%となっている。

図 8-8. 差別的な言動を見聞きした時どうしたか—年齢別

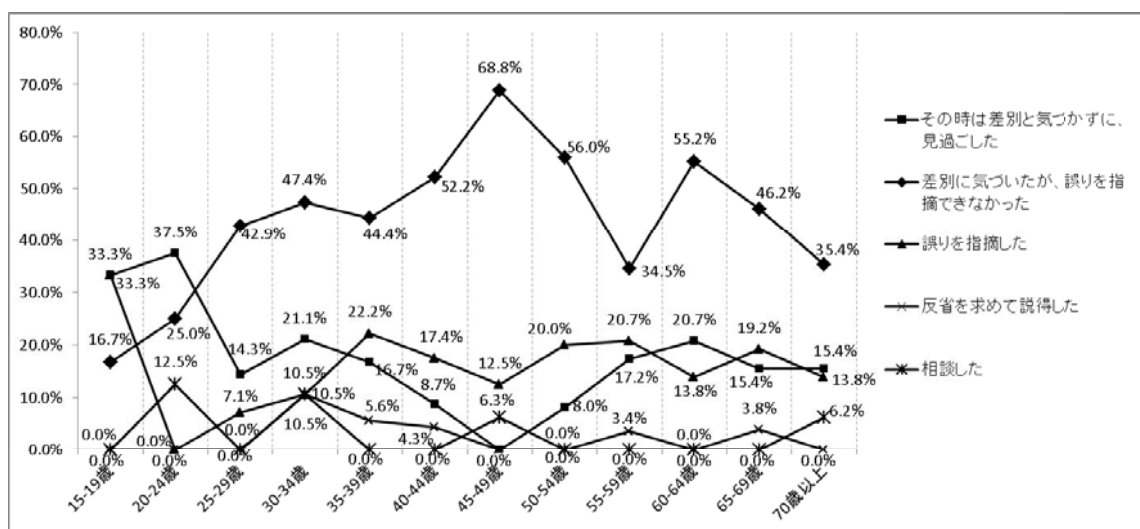


図 8-8 は、見聞きした差別的な言動に対する態度について年齢別にみたものである。

「差別に気づいたが、誤りを指摘できなかった」と回答した人は、「45～49 歳」68.8%が最も高く、次いで「50～54 歳」56.0%、「60～64 歳」55.2%となっている。

「誤りを指摘した」と回答した人は、「15～19 歳」33.3%が最も高く、次いで「35～39 歳」22.2%となっている。

「その時は差別と気づかずに、見過ごした」と回答した人は、「20～24 歳」37.5%が最も高く、次いで「15～19 歳」33.3%となっている。

問9 学校での同和教育・人権教育についておたずねします。

問 9-1 あなたは、これまで学校在学中に同和（部落）問題をはじめさまざまな人権問題についての学習をしたことがありますか。（○は1つだけ）

図 9-1. 同和教育・人権教育の学習経験—全体・性別

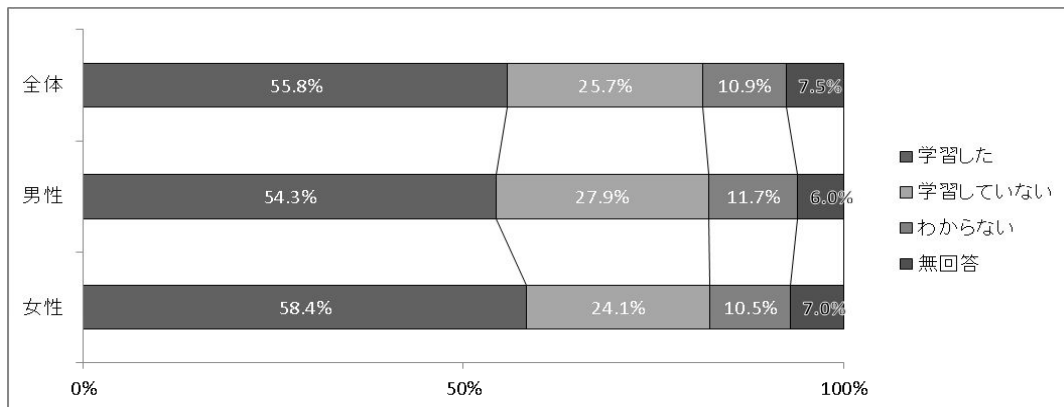


図 9-1 は、同和教育・人権教育の学習経験についてみたものである。

これまで学校在学中に同和（部落）問題をはじめさまざまな人権問題についての学習をしたことがあるかの問いでは、「学習した」と回答した人は全体で 55.8%が最も高く、次いで「学習していない」は 25.7%となっている。

性別では、「学習した」と回答した人は、男性 54.3%、女性 58.4%となっている。

図 9-2. 同和教育・人権教育の学習経験—年齢別

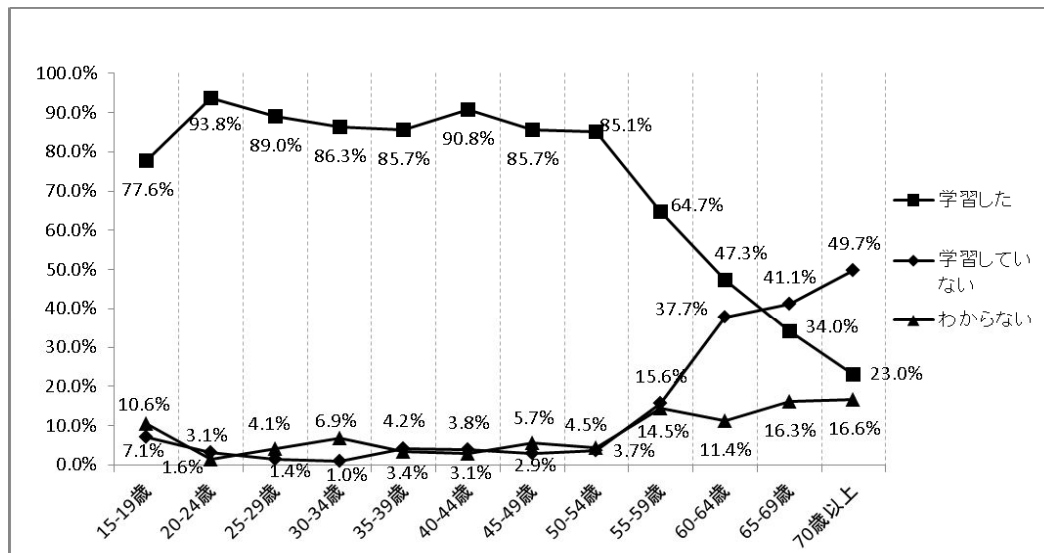


図 9-2 は、同和教育・人権教育の学習経験について年齢別にみたものである。

「学習した」と回答した人は、「20-24 歳」93.8%が最も高く、次いで「40～44 歳」90.8%、「25～29 歳」89.0%となっている。

「学習していない」と回答した人は、「70 歳以上」49.7%が最も高く、次いで「65～69 歳」41.1%、「60～64 歳」37.7%となっている。

問 9-2 問 9-1 で 1 と回答された方におたずねします。学校での学習にどんな印象をもちましたか。(○は 2 つ以内)

図 9-3. 同和教育・人権教育の印象—全体・性別

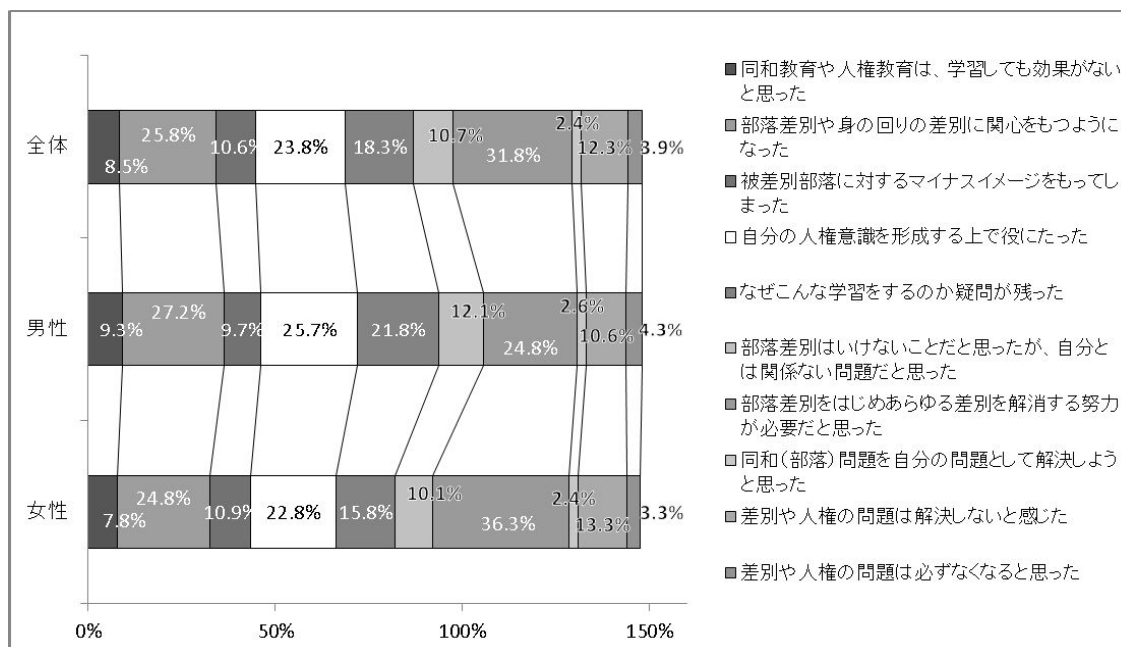


図 9-3 は、同和教育・人権教育の印象についてみたものである。

学校での学習にどんな印象をもったかの問いでは、「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人が全体は 31.8%と最も高く、次いで「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」25.8%、「自分の人権意識を形成する上で役にたった」23.8%となっている。

性別では、「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人は、男性 24.8%、女性 36.3%となっている。また、「なぜこんな学習をするのか疑問が残った」と回答した人は、男性 21.8%、女性 15.8%で、「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」と回答した人は、男性 27.2%、女性 24.8%となっている。

図 9-4. 同和教育・人権教育の印象—年齢別

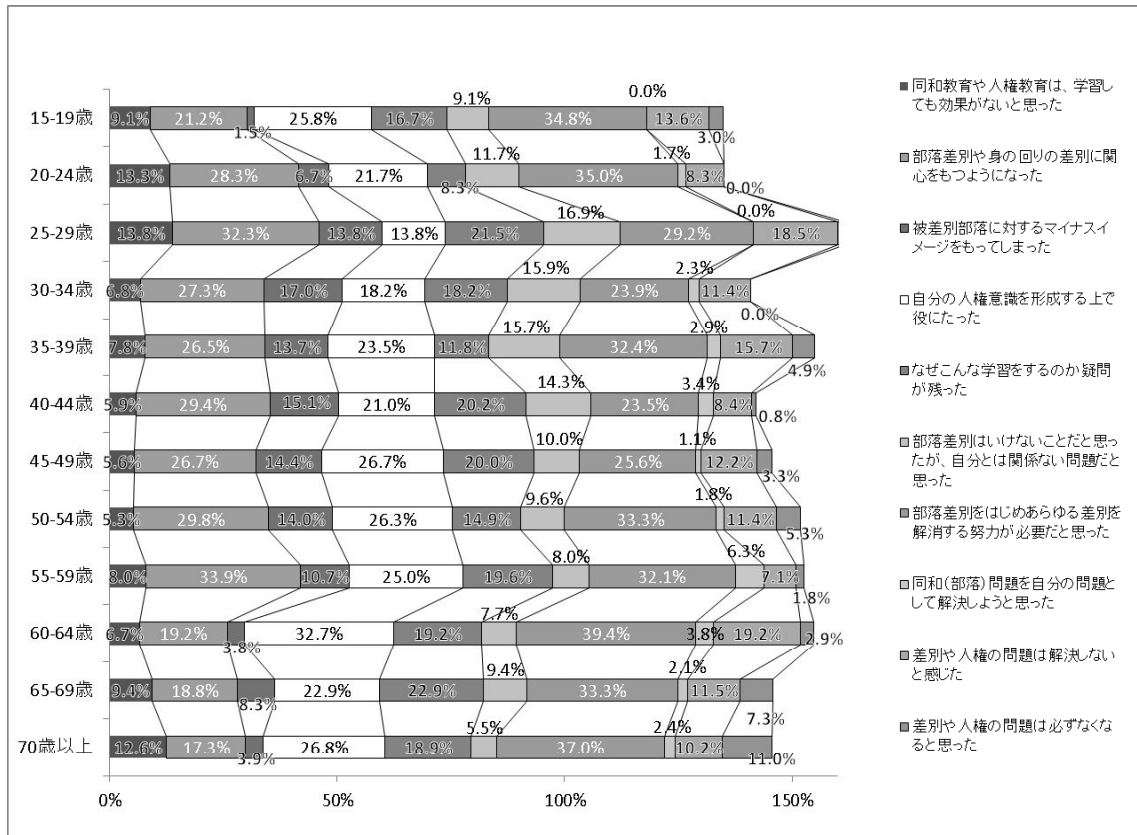


図 9-4 は、同和教育・人権教育の印象について年齢別にみたものである。

「部落差別をはじめあらゆる差別を解消する努力が必要だと思った」と回答した人は、「60～64 歳」39.4%が最も高く、次いで「70 歳以上」37.0%、「20～24 歳」35.0%となっている。

「部落差別や身の回りの差別に関心をもつようになった」と回答した人は、「55～59 歳」33.9%が最も高く、次いで「25～29 歳」32.3%となっている。

「なぜこんな学習をするのか疑問が残った」と回答した人は、「65～69 歳」22.9%が最も高く、次いで「25～29 歳」21.5%となっている。

「自分の人権意識を形成する上で役にたった」と回答した人は、「60～64 歳」32.7%が最も高く、次いで「70 歳以上」26.8%、「45～49 歳」26.7%となっている。